

構造設計標準仕様

適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 馬鈴しょ保冷貯蔵庫新築工事
建築場所 北海道帯広市稲田町基線8-11, 8-12
- (2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築
- (3) 構造種別
木造 (W) 補強コンクリートブロック造 (CB) 鉄骨造 (G)
鉄筋コンクリート造 (RC) 静式鉄筋コンクリート造 (WRC)
鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)
- (4) 階数
地下 階 地上 1階 塔屋 階
- (5) 主要用途 倉庫(馬鈴しょ)
- (6) 屋上付属物
室外機 kN キュービクル kN 広告塔 煙突
- (7) 特別な荷重
エレベータ 人乗(ロープ式 油圧式) チェーンブロック kN
- (8) 付帯工事
門扉 機室 倉庫
- (9) 増築計画 有 () 無
- (10) 構造計算ルート X方向ルート 1-2 Y方向ルート 1-2

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	調合管理強度 N/mm ²	スランプ cm	備考
基礎、地中梁、柱脚	普通	24		15	
土間コンクリート	普通	21		15	
ラップコンクリート	普通	18		15	
捨てコンクリート	普通	18		15	

(2) コンクリートブロック (CB)

A種 B種 C種 厚 100 120 150 190

(3) 鉄筋

異形鉄筋	種類	径	使用箇所	継手工法
<input checked="" type="checkbox"/> SD295	D10, D13, D16		基礎、腰壁	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手
<input type="checkbox"/>				
<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19, D22, D25		地中梁、柱脚	<input checked="" type="checkbox"/> ガス圧接継手
<input type="checkbox"/>				
高強度せん断補強筋				<input type="checkbox"/> 特殊継手
丸鋼 (JIS G 3531)	<input checked="" type="checkbox"/> SR235			()
溶接金網	<input type="checkbox"/>			

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input checked="" type="checkbox"/> SN400A, B, C	梁・間柱	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490 <input type="checkbox"/> STK400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235 <input type="checkbox"/> TSC295	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SM490A <input checked="" type="checkbox"/> SN490B, C <input type="checkbox"/>	ベースプレート、ダイヤフラム	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
<input checked="" type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/>	胴縁	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

(5) ボルト

- 高力ボルト
普通: F10T 特殊: S10T 認定品 (M12 M16 M20 M22 M24)
溶融亜鉛めっき高力ボルト (M16 M20 M22 M24)
高力ボルトすべり係数試験 要 否
高力ボルト導入張力確認試験 要 否

ボルト: 強度区分4.6 (中ボルト)
M12

アンカーボルト

種類	径	長さ	ナット (<input type="checkbox"/> シングル, <input checked="" type="checkbox"/> ダブル)
<input checked="" type="checkbox"/> ABR490 M42	L=1050 mm	ナット (<input type="checkbox"/> シングル, <input checked="" type="checkbox"/> ダブル)	
<input checked="" type="checkbox"/> ABR490 M39	L=975 mm	ナット (<input type="checkbox"/> シングル, <input checked="" type="checkbox"/> ダブル)	
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 M20	L=500 mm	ナット (<input type="checkbox"/> シングル, <input checked="" type="checkbox"/> ダブル)	
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 M16	L=400 mm	ナット (<input type="checkbox"/> シングル, <input checked="" type="checkbox"/> ダブル)	

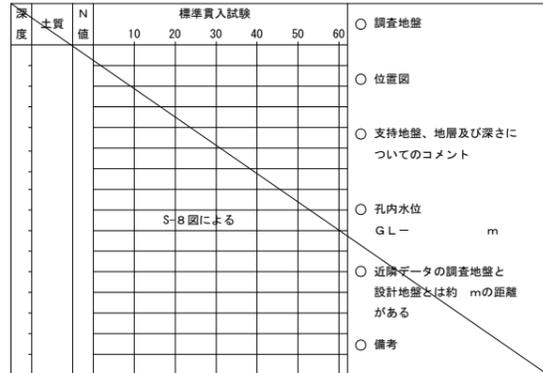
頭付スタッド (詳細図による)
φ= L= mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

(6) 屋根、床、壁

- A L C板 厚 H=150 厚 0.8 折板W=500
折板
デッキプレート
特殊デッキプレート アイルーフ75 t=1.0

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
有 (散地内 近隣) 標準貫入試験 スクリーウエイト貫入試験
ボーリング調査 平板載荷試験 水平地盤反力係数の測定
液状化判定 現場透水試験 土質試験
無 (調査予定 有 無)
- (2) 地盤調査計画
ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 水平地盤反力係数の測定
土質試験 物理調査 平板載荷試験
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果より、長杭、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)



4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ※深層混合処理工法
ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験堀 有 無
深さ G L-1.5 m 支持層 - 砂礫層 改良長 - 3.0 m
長期許容支持力 314 kN/m² 載荷試験 有 無
- (2) 基礎杭 支持層 -

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PC <input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼 <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	PRC (<input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種) PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種) 鋼材 <input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> STK490	<input type="checkbox"/> 打ち込み <input type="checkbox"/> 埋込み(セメントミルク工法) <input type="checkbox"/> プレボーリング掘削工法 <input type="checkbox"/> G-ECSパイプ工法	
<input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭	コンクリート F _c = N/mm ² スランプ cm セメント量 kN/m ² 鉄筋 主筋 SD390 HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング工法 <input type="checkbox"/> 振込杭 <input type="checkbox"/> リブスサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> B H <input type="checkbox"/> 深堀	振込杭 日本建築センター認定 第 年 月 日

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書
試験杭 (有, 無) (打ち込み 載荷) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5(2015)による。
セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
調査計画は、工事開始前に工事監督者の承認を得ること。
コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度 (F_c) に、次表の構造体強度補正値 (S) を加えた値以上とする。
構造体強度補正値 (S) は、下表により、セメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。

セメントの種類	コンクリート打込みから材齢28日までの 予想平均気温θの範囲 (°C)	
普通ポルトランドセメント 混合セメントのA種	8 ≤ θ	0 ≤ θ < 8
早強ポルトランドセメント	5 ≤ θ	0 ≤ θ < 5
構造体強度補正値 (S) (N/mm ²)	3	6

寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。

- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
構造体コンクリートについては、現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150mをこえる場合は150mごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、輸送時間が約1時間の場合外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

- (2) 鉄筋
鉄筋は、JIS G3112の規格品とする。JIS G3117の再生鋼を使用する時は管理者の承認を得ること。施工はJASS5(2015)による。
高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1号適合品とする。
鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、公益法人日本鉄筋継手協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は5本以上とする。外観検査 有 無、引張試験 有 無、超音波深部試験 有 無
柱の帯筋 (H O O P) の加工方法は、 H型 (タガ型) W型 (溶接型) S型 (スパイラル型) とする。
鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、吊り金物等を使用し行う。
なおスペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。
また、鋼製のスペーサーは型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。
使用箇所 壁・柱・梁 合成樹脂製 鋼製
スラブ 合成樹脂製 鋼製

(3) 型枠

- 材料 合板厚 12mmを標準とする。 施工はJASS5による。
型枠存置期間

コンクリート の 種 別 (注)	せき板				支 柱		
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ上	はり下	スラブ下	はり下	はり下
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの 圧縮強度	5.0 N/mm ²				設計基準強度の50%		
					85%		
					設計基準強度の 100%		

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監督者の指示による。
注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。
注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監督者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違いの検査・補強マニュアル」
- (2) 工事監督者の承認を必要とするもの
製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書
認定または登録工場 (大臣認定 S H (M) R J グレード)
材料規格証明書※: または試験成績書
鋼材 高力ボルト 特殊ボルト 頭付スタッド
※社)日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
社内検査表
- (3) 工事監督者が行う検査項目
(印以外の項目の検査結果については、工事監督者に報告すること)
現寸検査 組立・開先検査 製品検査 建方検査
- (4) 接合部の溶接は下記によること
平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
日本建築学会「溶接工作基準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII」
日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

- 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監督者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		工自主検査	第三者入検査	工事監督者	
<input checked="" type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査 (※)	100 () 個	0 個	0 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による (目視及び計測)
	超音波深部検査	100 () 個	30 () 個	0 個	
	内質検査 (注)	<input type="checkbox"/> 硬さ試験	0 個	0 個	
		<input type="checkbox"/> 示温塗料塗布	0 個	0 個	
	マクロ試験・その他	0 個	0 個	0 個	
<input checked="" type="checkbox"/> 隅肉溶接	外観検査 (※)	100 () 個	0 個	0 個	

注1) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査とし、外観検査、超音波深部検査100%行うこと

- 高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事監督者に報告すること)
軸力導入試験 要 否 高力ボルトすべり係数試験 要 否
一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
トルシア形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

(6) 防錆塗料

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、 IS K 5674、 IS K 5625、 を使用して、4つ2回塗り標準とするが、実状に応じて決定すること。
現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は急に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

- (8) 鋼材の溶融亜鉛メッキ処理
鋼材は溶融亜鉛メッキ処理とする。
摩擦面は、すべり係数値を0.40以上確保するため、溶融亜鉛メッキ後、軽くブラスト処理を施し、摩擦面の表面粗度を50μmRz以上とする。フィラーについても同様の処理を施す。
摩擦面をりん酸塩処理とする場合は、指定又は認定された条件に基づき、すべり耐力等を確認する。
メッキ処理を施すにあたっては、専門工事業者とパイプ材の処理方法について打ち合わせを行い、安全かつ円滑な施工に努めること。
無収縮モルタルに接する部分のメッキ処理は行わない。エポマリン (不メッキ材) を塗布。

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
設備機器の架台及び基礎については工事監督者の承認を得ること。
床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。
必要に応じて記録写真を撮影保管すること。

9. 令第129条の2の3の事項

- 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
建築設備 (昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐蝕又は腐食のおそれがないものとする。
屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの (以下「屋上水槽等」という) は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。
煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、9.0cm以下とすること。
煙突が屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが2.5cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
構造物に設ける給水、排水その他の配管設備 (給湯設備*を除く) は
風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等については、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。
給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1389号第5に規定する構造方法によること。
*「給湯設備」: 建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと
※適用は ■ 印を記入する

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
 (2) 記号
 d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値(径) D…部材の成、又は鉄筋内法直径
 @…間隔 r…半径 C…中心線 l_o…部分間の内法距離 h_o…部材間の内法高さ
 S T…あばら筋 H O O P…帯筋 S. H O O P…補強帯筋

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

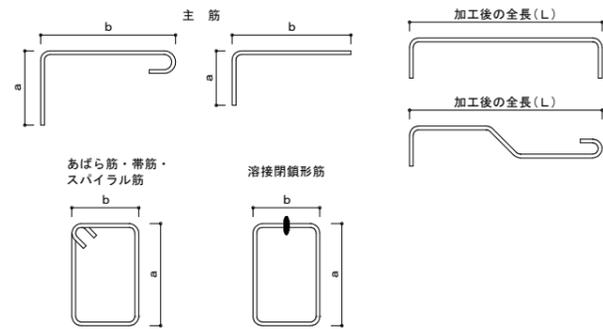
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
	135°		D19~D41	4d以上
	90°	SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	5d以上
	90°		D29~D41	6d以上

- [注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。
 (2) スパイラル筋の重ね継手部に90° フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
 (3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
 (4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
 (5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
 (6) SD490の鉄筋を90° を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

(2) 加工寸法の許容差 (mm)

項目	符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋 D25以下	a, b ±15
	D29以上D41以下	a, b ±20
加工後の余長	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b ±5
	加工後の余長	L ±20

[注] (1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



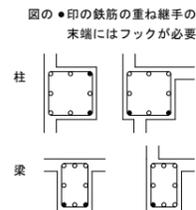
(3) 鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



(4) 鉄筋のフック

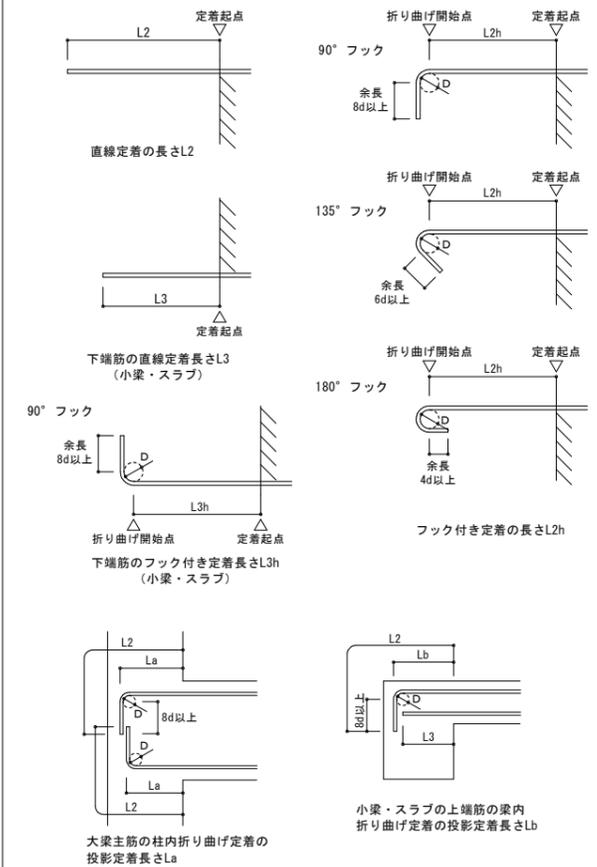
- a~eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。
 a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
 b. 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
 c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)
 d. 単純梁の下端筋
 e. その他、本配筋標準に記載する箇所



(5) 定着長さ

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	定着の長さ					小梁下端筋 L ₃ (フックなし)	スラブ下端筋 L ₃ (フックあり)
		一般 L ₂ (フックなし)	L _{2h} (フックあり)	La ⁽³⁾	L _b	L _{3h} (フックあり)		
SD295A SD295B	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	
	21	35d	25d	15d	15d			
	24~27	30d	20d	15d	15d			
	30~36	30d	20d	15d	15d			
	39~45	25d	15d	15d	15d			
	48~60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d	
	21	35d	25d	20d	20d			
	24~27	35d	25d	20d	15d			
	30~36	30d	20d	15d	15d			
	39~45	30d	20d	15d	15d			
	48~60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d	20d	10d	
	24~27	40d	30d	20d	20d			
	30~36	35d	25d	20d	15d			
	39~45	35d	25d	15d	15d			
	48~60	30d	20d	15d	15d			
	48~60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24~27	45d	35d	25d	—	—	—	
	30~36	40d	30d	20d	—			
	39~45	40d	30d	20d	—			
	48~60	35d	25d	20d	—			
	48~60	35d	25d	20d	—			
	48~60	35d	25d	20d	—			

- [注] (1) フック付き鉄筋の定着長さL_{2h}は、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
 (2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
 (3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL_{2h}確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長さをL₂以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
 (4) 耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着L₂とする。



(6) 継手

■重ね継手

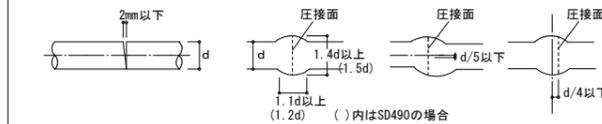
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	重ね継手長さ	
		L ₁ (フックなし)	L _{1h} (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24~27	35d	25d
	30~36	35d	25d
	39~45	30d	20d
	48~60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24~27	40d	30d
	30~36	35d	25d
	39~45	35d	25d
	48~60	30d	20d
SD345	21	50d	35d
	24~27	45d	35d
	30~36	40d	30d
	39~45	40d	30d
	48~60	35d	25d
	48~60	35d	25d
SD490	24~27	55d	40d
	30~36	50d	35d
	39~45	45d	35d
	48~60	40d	30d
	48~60	40d	30d
	48~60	40d	30d

- [注] (1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 (2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
 (3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

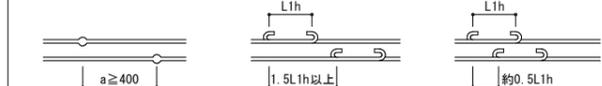
■継手に関する注意

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状(平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)



・圧接継手



(7) かぶり厚さ

- 最少かぶり厚さは、下表に規定する設計かぶり厚さを10mm 減じた値とする。
 ■設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、下表以上の値とする。

構造体の計画併用期間の級	標準・長期		超長期	
	屋 内	屋 外(2)	屋 内	屋 外(2)
構造部材	40	50	40	50
非構造部材	30	40	40	50
要求する部材	30	40	40	50
計画併用期間中に維持保全を行う部材	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および基礎の立上り部分、擁壁の壁部分	50			
基礎、擁壁の基礎・底盤	70			

- [注] (1) 計画併用期間の級が超長期で計画併用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
 (2) 計画併用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを10mm 減じることができる。

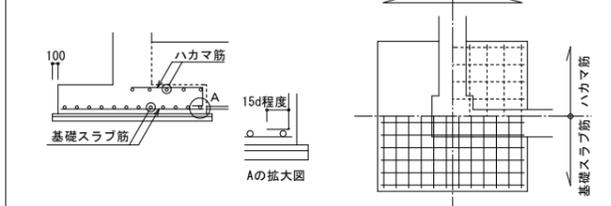
- 完成した構造体の各部位における屋外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
 ■コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施工例第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくてもよい。

3. 杭・基礎

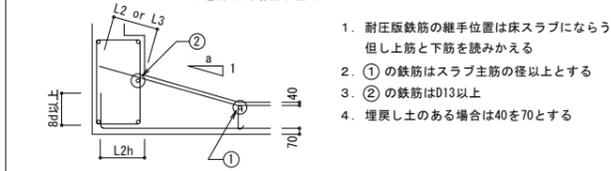
(配筋については地震力等の水平力を考慮して別途検討すること)

(1) 直接基礎

① 独立基礎

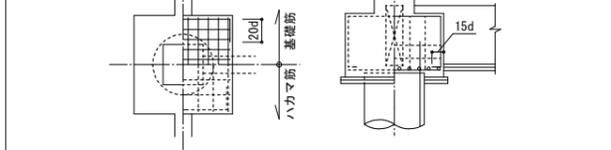


② ベタ基礎

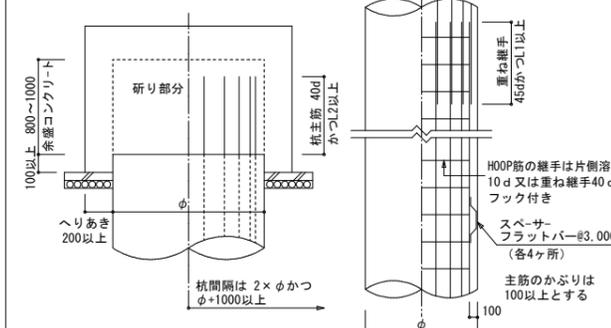


(2) 杭基礎

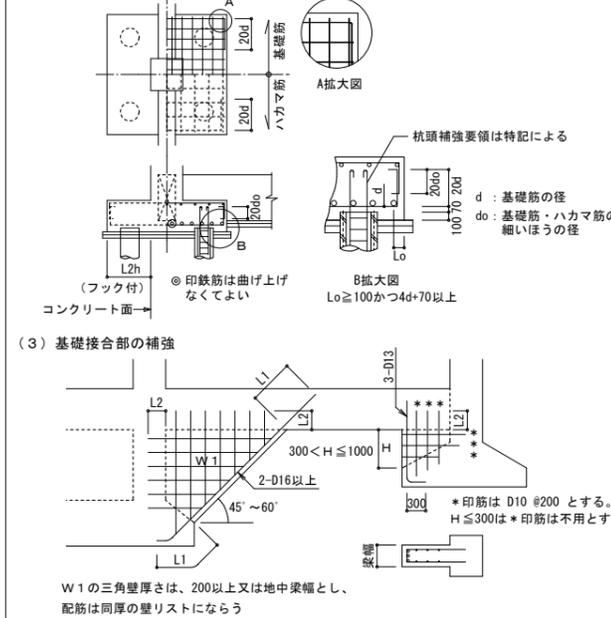
① 場所打ち杭



② PHC杭



(3) 基礎接合部の補強



新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

7. 小梁、片持梁

(1) 定着

① 小梁の定着

② 段差小梁の配筋(連続端の場合)

③ 小梁筋の継手位置

④ 片持梁の定着

⑤ 隣接する梁がある場合で柱定着又は、隣接する梁へ定着する場合

8. 床版

(1) 定着および継手

① 一般床スラブ(四辺固定)

② 屋根スラブの補強

(2) 片持床スラブ定着及び出隅部補強

① 片持床スラブ定着

② 片持床スラブ出隅部補強

(3) 床版開口部の補強(開口の径500以下程度の場合)

床版厚さD	周囲	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 300	各2-D13	各2-D13
300 < D ≤ 500	各2-D19	各2-D16

(4) 床版段差

① 全断

(5) 土間コンクリート

① 軽作業の土間

(6) 間仕切壁との交叉部

(7) 釜場

(8) 打継ぎ補強(ダメ穴断面について)

9. 壁

(1) 定着

① 梁に

② 柱に(平面図)

(2) スリット部(設計図に記入のあるとき)

完全スリット

(3) 手摺、パラペット

パラペット

手摺

(4) コンクリートブロック積壁

(5) 耐震壁端部の納まり

(6) 連層耐震壁乾燥収縮の補強筋

注) 補強筋はE150の場合3-D13@100シングル
E180~200の場合4-D13@100シングル
E250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10. 柱、梁増打コンクリート補強(増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと)

(1) 柱

(2) 梁

●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
●ハッチ部分の面積 A cm²

補強タテ筋	
A < 500	3-D16
500 ≤ A < 1000	4-D16

●150以上の増打ちは表示による。
●増打ち50以下は補強なし。
●※柱100Pと同様、同じピッチとする。

●補強筋は、梁主筋の1段階し僅(D16以上)とする。
●あばら補強筋は、梁と同様、同じピッチとする。
●腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
●B ≥ 400の場合は補強筋を3本とする。
●梁下増打コンクリートの場合も上端増打コンクリートと同様とする。
●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
●150以上の増打ちは表示による。
●増打ち50以下は補強なし。

11. 梁貫通孔補強(開口補強筋については計算により確認すること)

(1) 設置可能範囲

(2) 既製品(指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

□製品名
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。
設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

鉄骨構造標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- 新構造設計特記仕様による。
 - 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。但し、ベースプレートの厚さは除く。
 - 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。
- (2) 工作一般
- 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
 - 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
 - 高強度鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。
- (3) 高力ボルト接合
- 本標準図に使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
 - 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを亜金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一律にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50 μ m Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。
 - 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。
- (4) 溶接接合
- 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
 - 溶接技能者
 - 溶接技能者は施工する溶接に適用するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
 - 溶接機器

(イ) 交流アーク溶接機 300A~500A	(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアガウジング機(直流)	(ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機一式	(ヘ) 溶接棒乾燥器
 - 溶接方法

アーク手溶接 (MC)	ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接 (NGC)	アークエアガウジング (AAG)
 - 溶接姿勢

下向 F	立向 V	横向 H	上向 O
- (5) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
- 仮付位置
 - 組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。
 - 仮付不良

仮付不良	良	仮付不良	良
 - 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。

裏はつり側に	開先面
 - 溶接施工
 - エンドタブ
 - 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同形状のエンドタブを取り付ける。
 - エンドタブの材質は、母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
 - エンドタブの長さは、MC:35mm以上
 - NGC, GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。
 - プレス鋼板タブ、円形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
 - 裏当て金
 - 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
 - 但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
 - スカラップ半径は30~35mmと10mmのダブルアールとする。但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする。

	(ニ) ノンスカラップ工法
スカラップ r=30~35mm	裏当て金
 - 裏はつり
 - 規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。
 - 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を備えぬ様に養生を行う。
- (6) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2. 溶接規準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位:mm)

(1) 隅肉溶接

t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	6	7	10	12

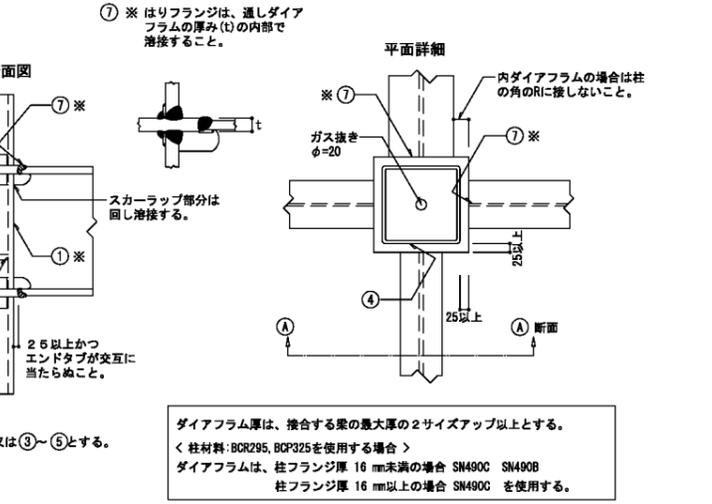
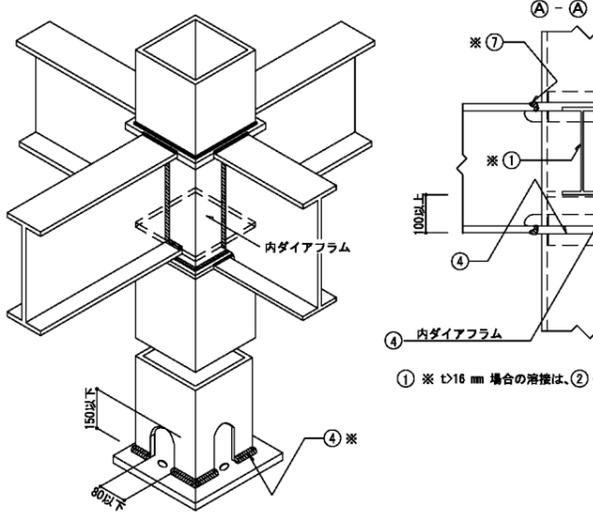
(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所注意)

(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

(4) フレアー溶接

寸法 (mm)	
ϕ	B S
9	7 4
13	8 4.5
16	9 5
19	10 6
22	11 7
25	12 8

BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

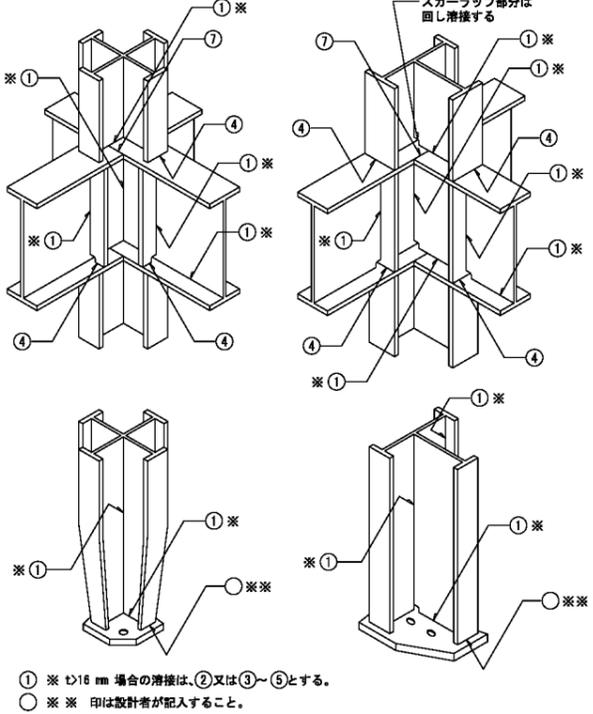


鋼材種別による溶接条件

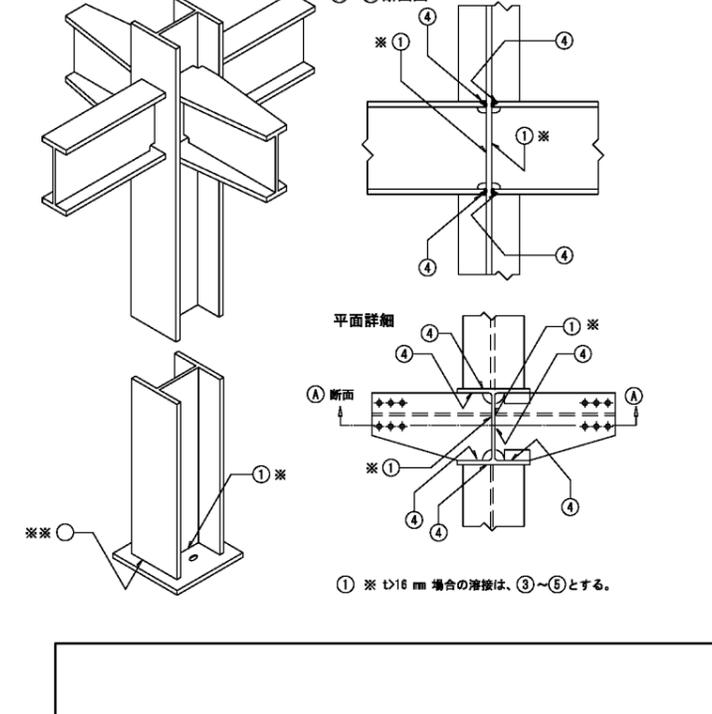
鋼材の種類	溶接材料と入熱量・パス間温度	
	溶接材料	入熱(kJ/cm) パス間温度(°C)
400N/mm ² 鋼材	JIS Z 3312	40 以下 350 以下
	YGW-11, 15	
	YGW-18, 19	
	JIS Z 3315	
490N/mm ² 鋼材	YGA-50W, 50P	40 以下 350 以下
	JIS Z 3312	
	YGW-11, 15	
	JIS Z 3315	

注) STKR, BCR, BCP材は JIS Z 3312, のみ使用可
「新構造設計特記仕様その1 鉄骨工事(2) 口部または壁工場のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

I-I H型

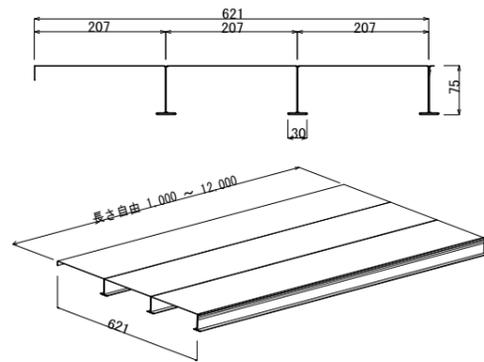


B.H方式



〈1〉製品仕様と材料

1. 形状・寸法



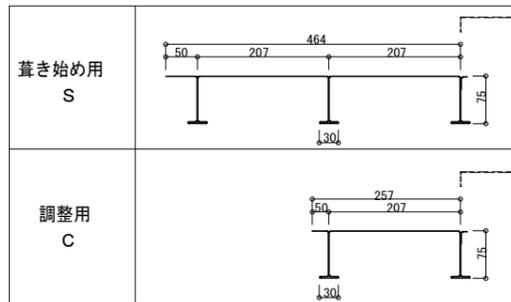
2. 重量・断面性能

Table with 4 columns: 板厚 (t), 重量 (kg/m²), 断面性能 (断面2次モーメント I, 断面係数 Z). Rows for 1.0 and 1.2 thickness.

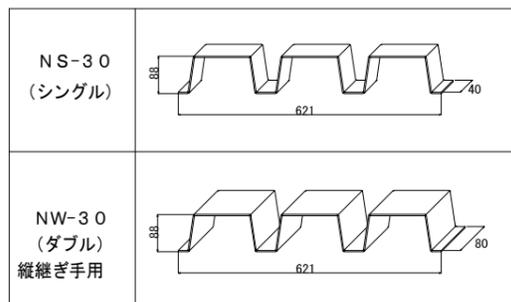
※断面性能は正圧・負圧の内、小さい方の値を採用

3. 製品種類・付属材料

役物の断面形状・寸法



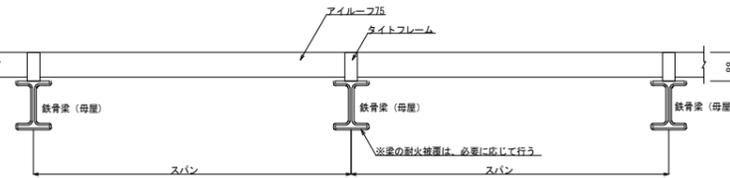
付属材料 (タイトフレーム)



〈2〉設計

1. 耐火仕様

Table with 4 columns: 耐火時間, 板厚, デッキ条件, 支持スパン. Rows for 屋根30分耐火 and FP030RF-1745.



2. 使用材料

Table listing material specifications: 板厚 (1.0mm, 1.2mm, 特注), 材料種類 (溶融亜鉛めっき鋼板, 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板, etc.).

3. 曲げ応力及びたわみ計算

Calculation formulas for deflection (たわみ) and stress (応力). Includes formulas for delta_max, sigma, and M, along with material properties like delta_max, sigma, M, l, w, E, and Z.

許容スパン表 (連続梁) (単位: mm). Table with columns for 長期 (Long-term) and 短期 (Short-term) spans for 1.0 and 1.2mm thicknesses, listing load and deflection values.

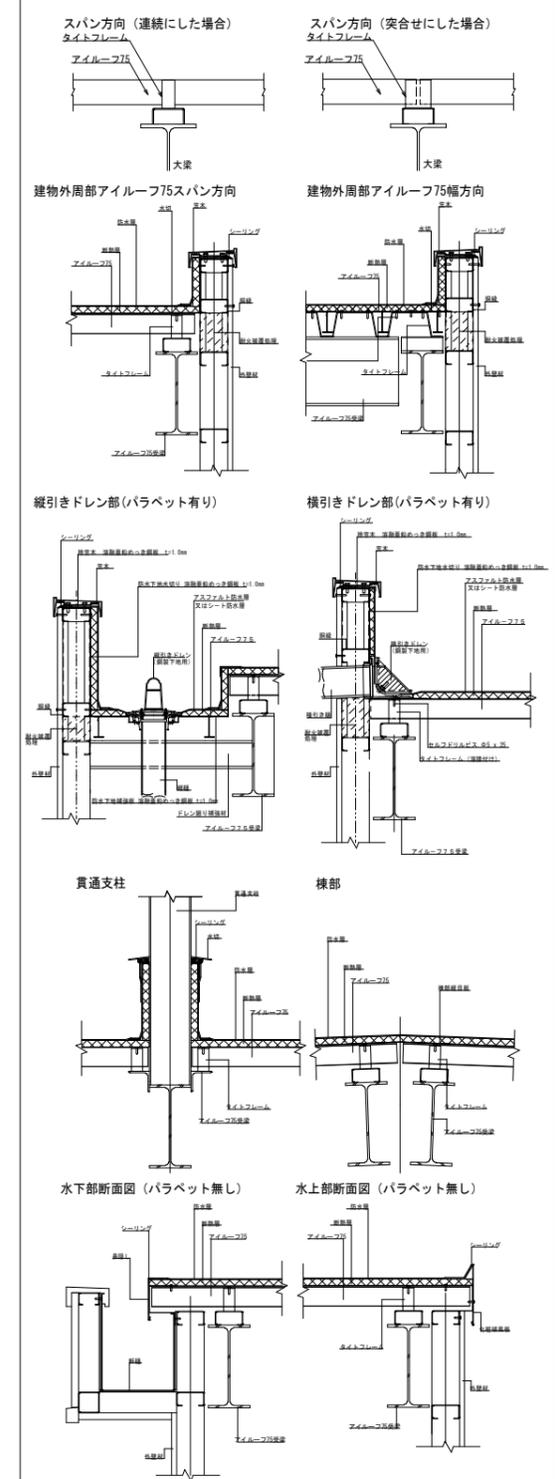
太枠内: 耐火構造許容スパン内 ※詳細な荷重計算については別途計算致します。 曲げとたわみと比較して小さい値を採用値 (斜線部) にしています。

〈3〉施工方法

1. 施工手順

- 1-1 割付計画
1-2 搬入・揚重・仮置・保管・墨出し
1-3 タイフレームと梁との接合
1-4 敷込み・仮止め
1-5 アイルフ75とタイトフレームとの接合
1-6 開口部補強
1-7 役物材取付
1-8 下地検査
1-9 防水施工

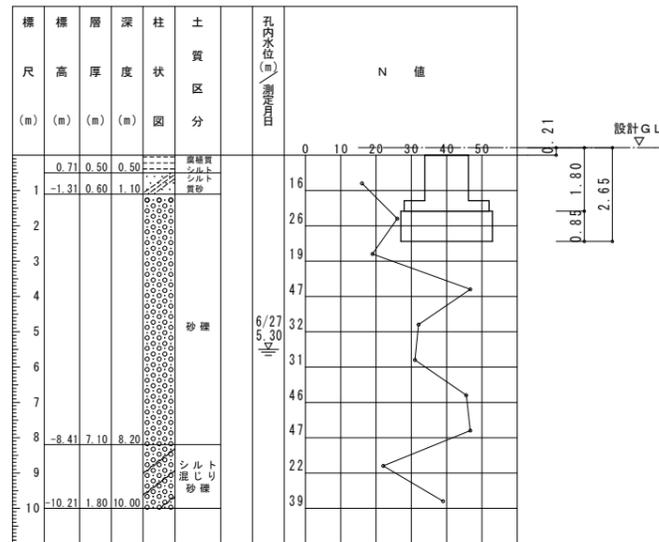
2. 納まり



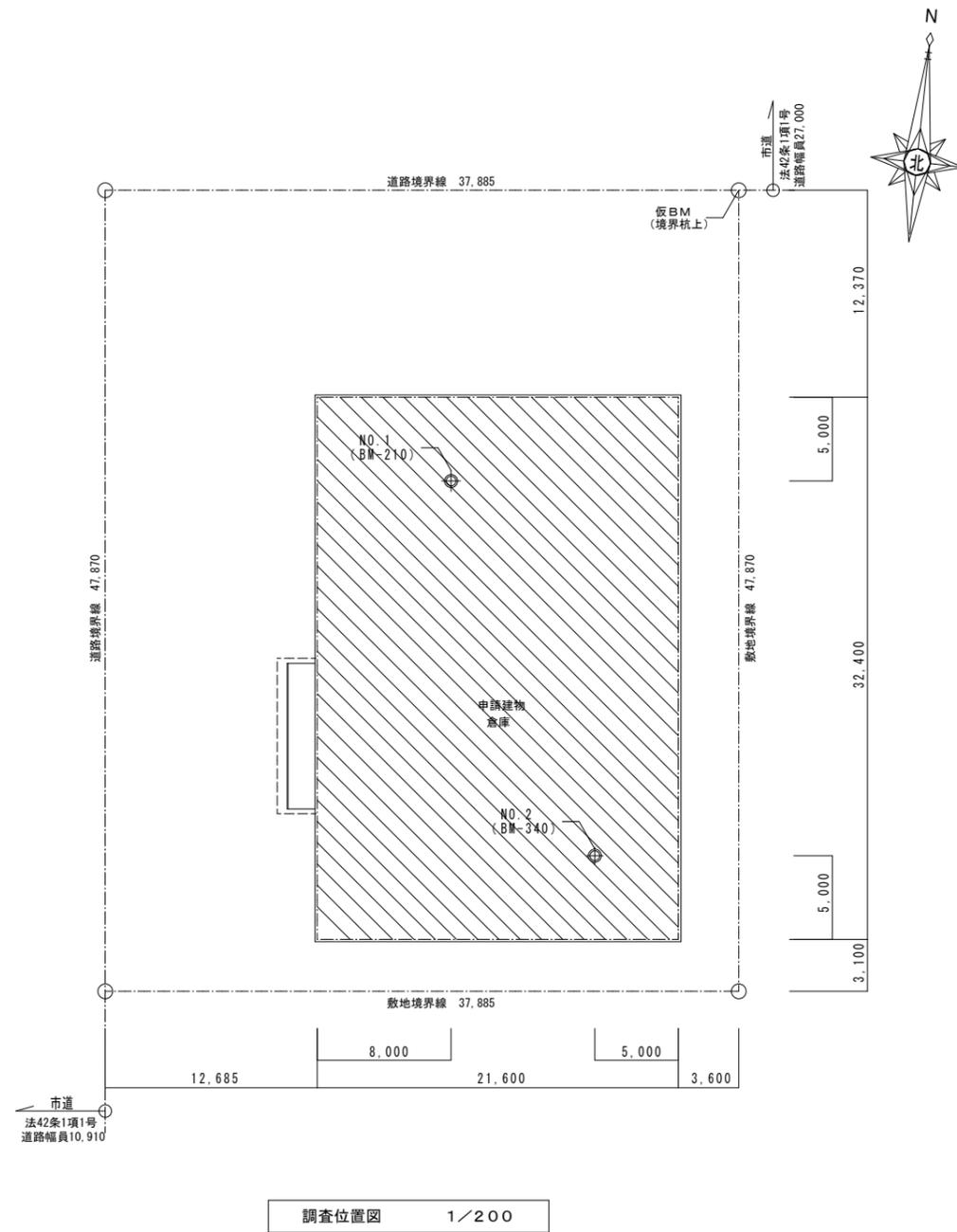
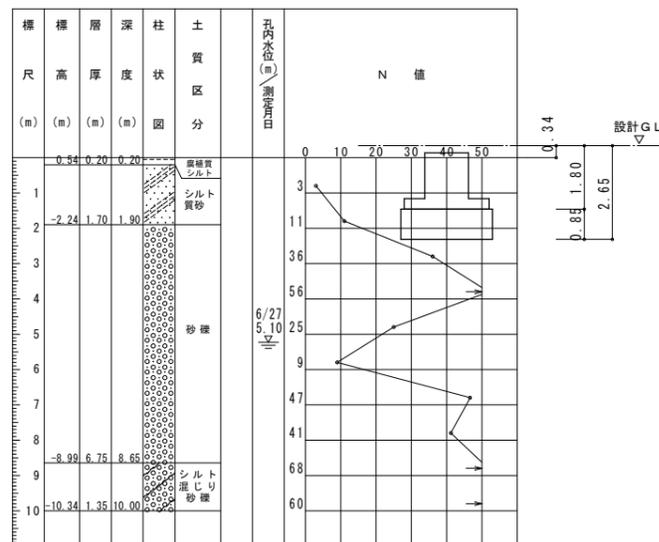
〈注意事項〉

- 1) スパンとは梁 (母屋) の中心距離とする。
2) 梁との複合被覆ではありません。
3) 梁 (母屋) に耐火性能が要求される場合は、それらに応じて耐火被覆を。
4) アイルフ75のアイリブから吊金具を使用して天井等を吊る場合、平清安定性において不具合が発生する恐れがありますので推奨していません。

ボーリング柱状図 No. 1

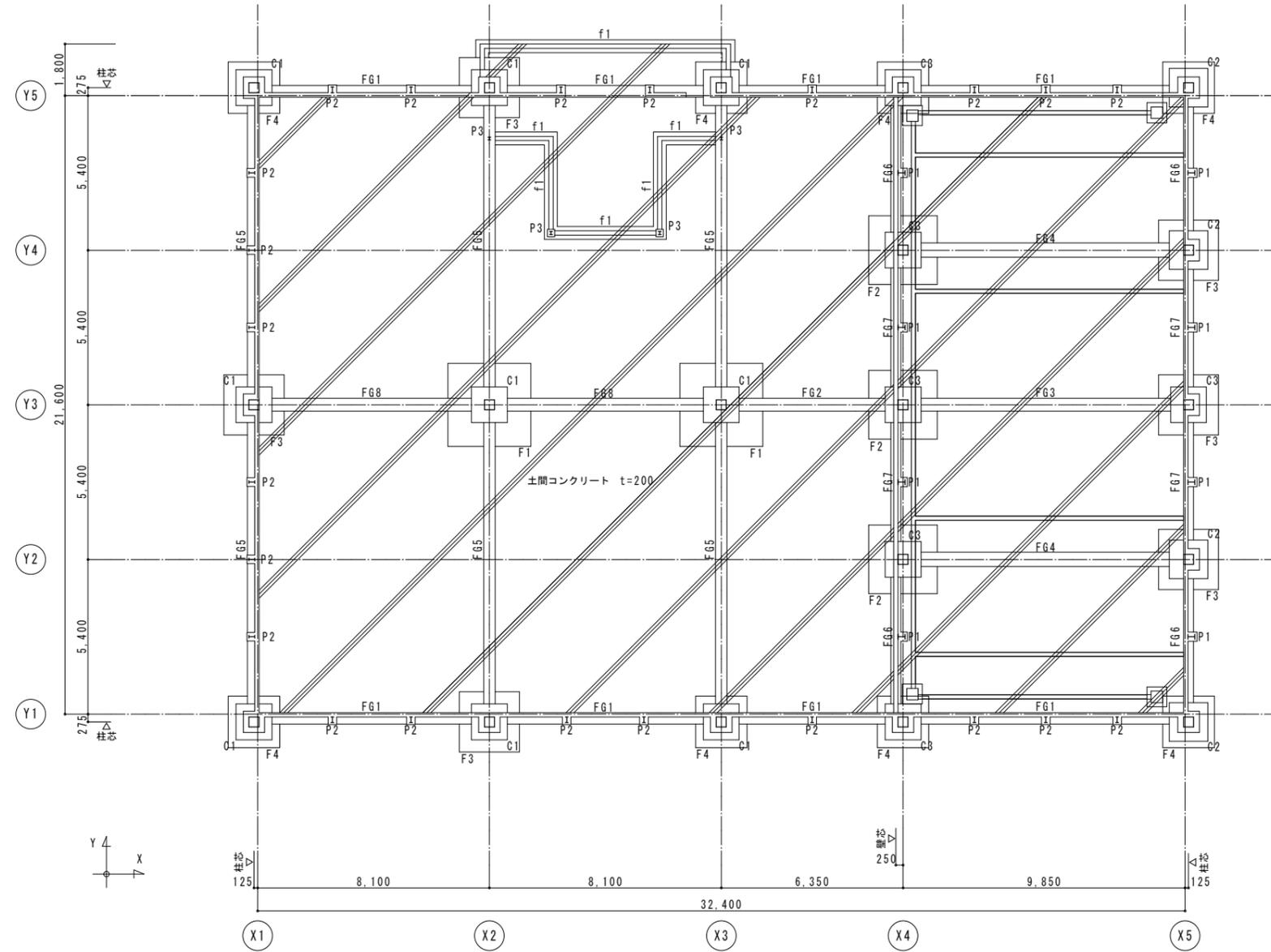


ボーリング柱状図 No. 2



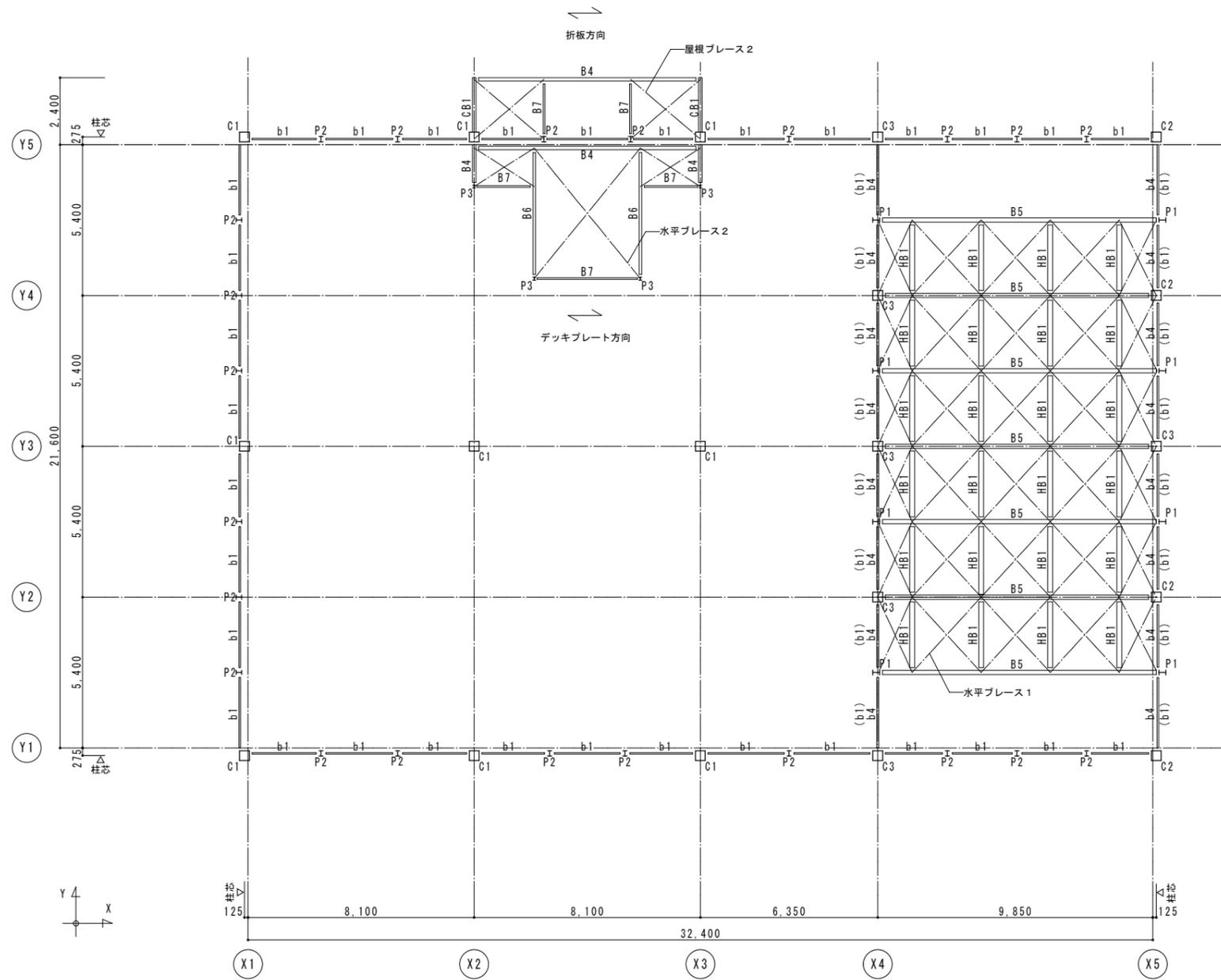
共通事項	
※	特記以外は公共建築協会編「令和4年版 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」及び「鉄筋コンクリート構造配筋標準図」に依る。
※	スリーブ貫通孔は、施工図により径位置決定し構造担当者 と事前打合せの上施工する。
※	コンクリートの塩化物総量値は 0.30 kg/m ³ 以下とする。
※	壁及び打増しコンクリート補強差し筋は先組とする。
※	D19以上継手は原則としてガス圧接とする。
※	許容地耐力度(長期) 250 kN/m ²
※	現場掘削の状況に依り基礎を変更することがある。
※	施工図原寸図承認の上加工(施工)すること。
※	突き合わせ溶接にはエンドタブを付ける。エンドタブは原則 として母材と同厚のものを用い、長さは35mm以上とする。
※	溶接部分は監理者立ち会いの上超音波探傷試験を行う。

使用材料	
コンクリート (JIS A5308)	FC24
土間コンクリート (JIS A5308)	FC21
ラップルコンクリート (JIS A5308)	FC18
捨てコンクリート (JIS A5308)	FC18
鉄筋 (JIS G3112)	SD295 (D10~D16) SD345 (D19以上)
鉄骨	SS400 下記以外 (JIS G 3101) SN400B G2、G3材 (JIS G 3136) TSC295 C材 (大臣認定番号 MSTL-0385) SSC400 鋼線 (JIS G 3350) SN490B C材の内ダイアフラム・トッププレート ベースプレート (JIS G 3136) SN490C C材の通しダイアフラム (JIS G 3136)
高力ボルト	S10T (F10T) (大臣認定番号 MBLT-0052)
中ボルト	強度区分 4.6 (JIS B 1051)
アンカーボルト	ABR490 C材 (JIS B 1220) SS400 P材 (JIS G 3101)



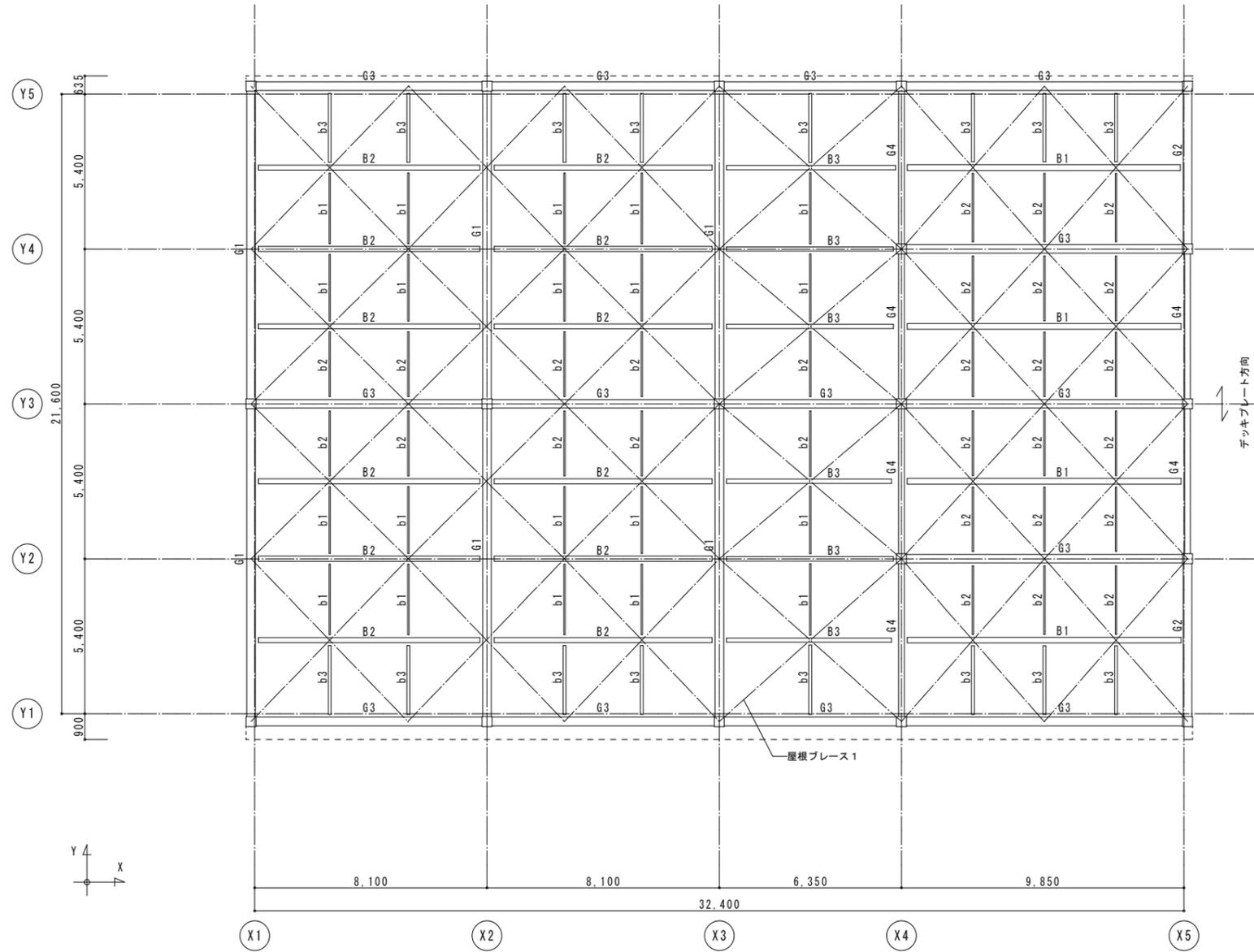
基礎伏図 1/100
 特記無き限り下記による。
 ・基礎底 設計GL-1800
 ・地中梁天端 設計GL-200

CONSTRUCTION TITLE	DRAWING NAME	SCALE	DATE	TO MATO	1級建築士事務所 (+) 337号	NUMBER
馬鈴しょ保冷貯蔵庫建設工事	基礎伏図	A1 1/100 A3 1/200	2025.5	都間杜設計 帯広市西16条南6丁目3番18号	1級建築士登録 193537号 TEL0155-66-6860 竹本泰之	S-9



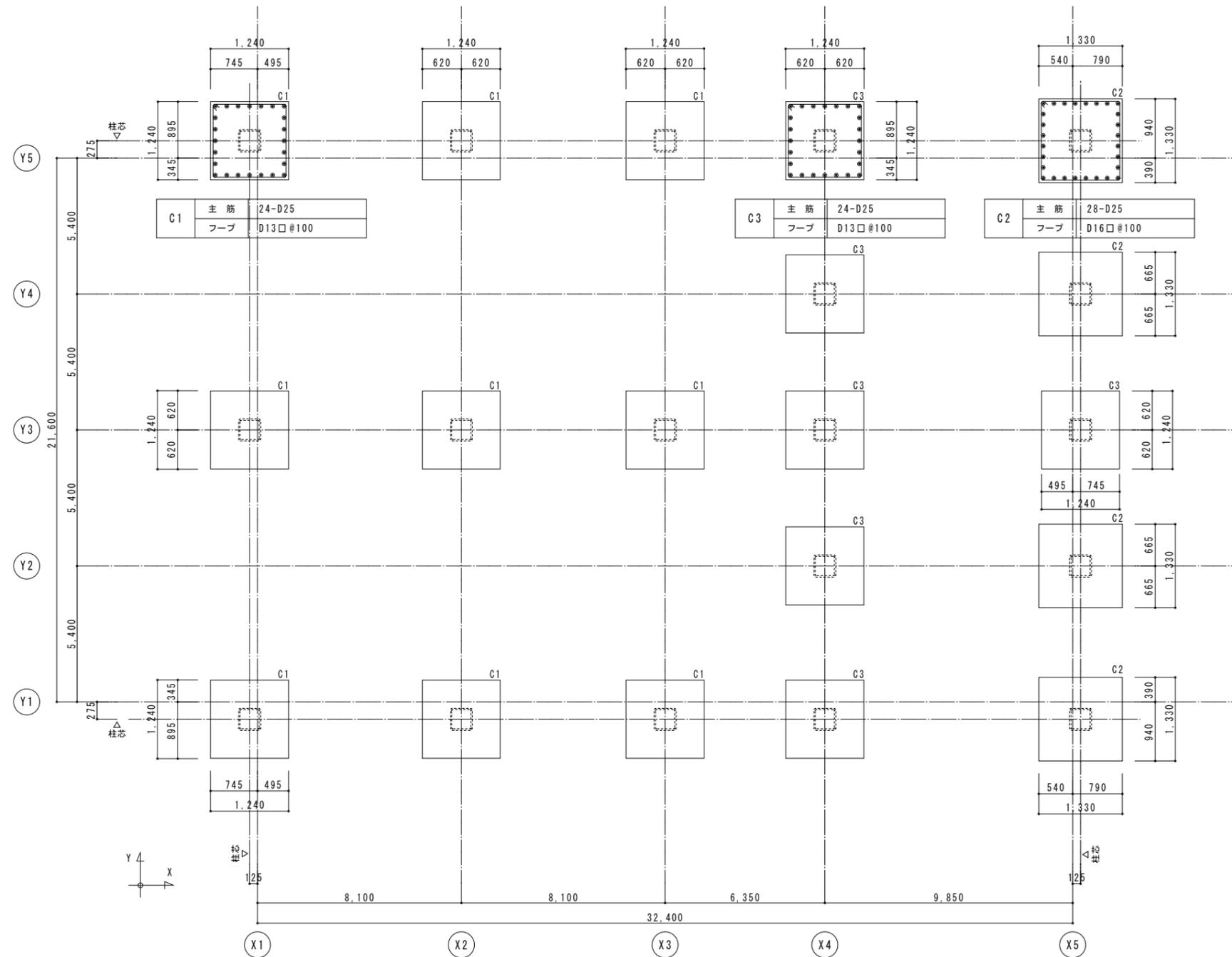
中間梁伏図 1/100

CONSTRUCTION TITLE 馬鈴しょ保冷貯蔵庫建設工事	DRAWING NAME 中間梁伏図	SCALE		DATE 2025 . 5	TO MA TO 都 間 杜 設 計 帯広市西16条南6丁目3番18号	1級建築士事務所 (+) 337号 1級建築士登録 193537号 TEL0155-66-6860 竹本泰之	NUMBER S-10
		A1 1/100	A3 1/200				



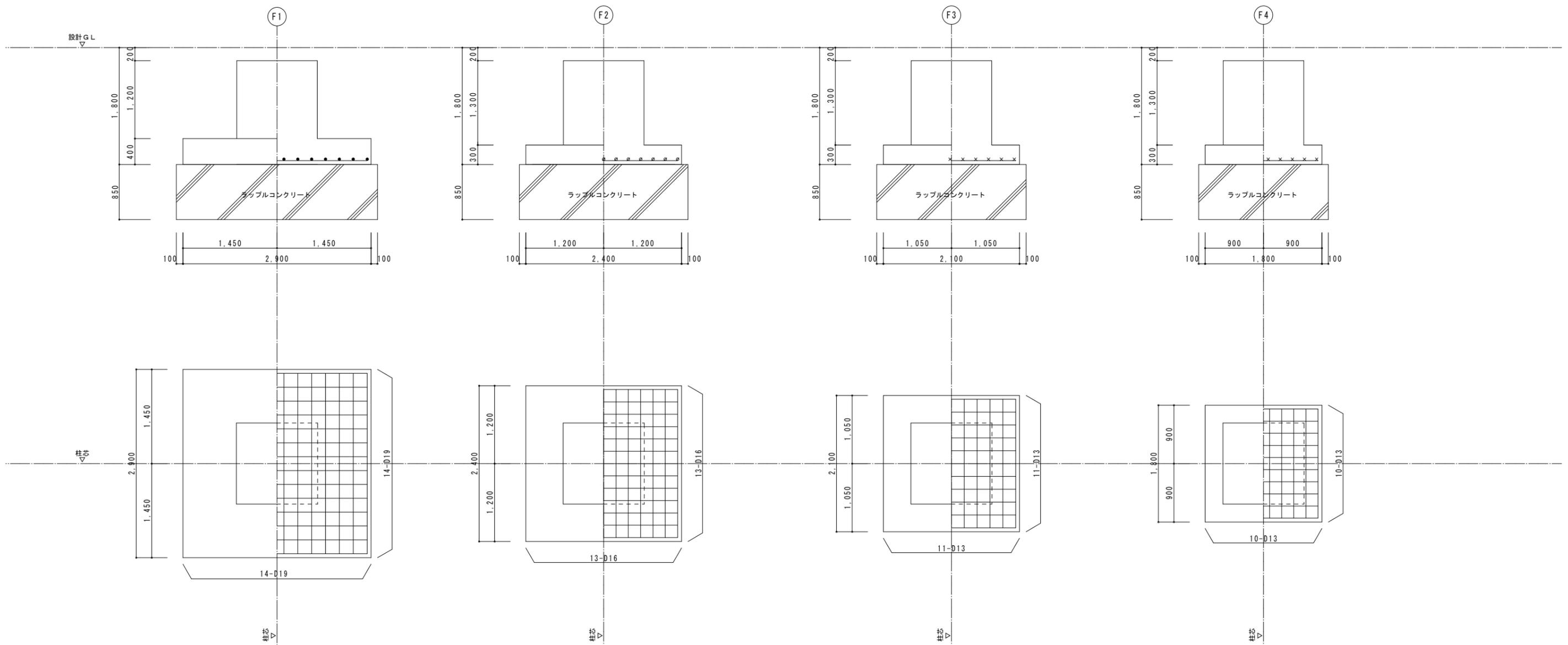
R階床伏図 1/100

CONSTRUCTION TITLE 馬鈴しょ保冷貯蔵庫建設工事	DRAWING NAME R階床伏図	SCALE		DATE 2025 . 5	TO MA TO 都 間 社 設 計 帯広市西16条南6丁目3番18号	1級建築士事務所 (+) 337号 1級建築士登録 193537号 TEL0155-66-6860 竹本泰之	NUMBER S-11
		A1 1/100	A3 1/200				



柱芯線図 1/40

CONSTRUCTION TITLE 馬鈴しょ保冷貯蔵庫建設工事	DRAWING NAME 柱芯線図	SCALE		DATE 2025 . 5	TO MA TO 都 間 社 設 計 帯広市西16条南6丁目3番18号	1級建築士事務所 (+) 337号 1級建築士登録 193537号 TEL0155-66-6860 竹本泰之	NUMBER S-12
		A1 1/100・40	A3 1/200・80				

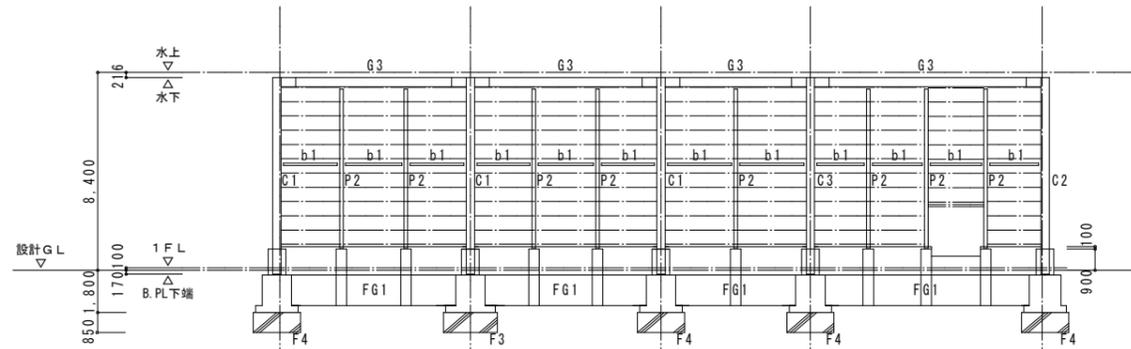


CONSTRUCTION TITLE 馬鈴しょ保冷貯蔵庫建設工事	DRAWING NAME 基礎リスト	SCALE		DATE 2025 . 5	TO MA TO 都 間 杜 設 計 帯広市西16条南6丁目3番18号	1級建築士事務所 (+) 337号 1級建築士登録 193537号 TEL0155-66-6860 竹本泰之	NUMBER S-13
		A1 1/30	A3 1/60				

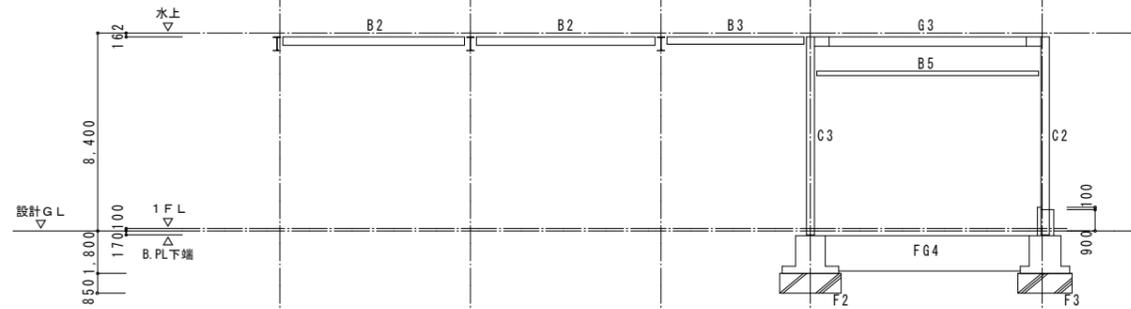
符号	FG1	FG2			FG3			FG4		FG5			FG6			FG7	FG8
位置	全断面	X3端	中央	X4端	X4端	中央	X5端	端部	中央	外端	中央	内端	外端	中央	内端	全断面	全断面
設計GL																	
断面																	
上端筋	4-D22	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D22	4-D22	6-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D25
下端筋	4-D22	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	8-D25	10-D25	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D25
スターラップ	D13□@200	D13□@200			D13□@200			D13□@200		D13□@200			D13□@200			D13□@200	D13□@200
腹筋	6-D10	6-D10			6-D10			6-D10		6-D10			6-D10			6-D10	6-D10

<p>地中梁打増補強</p> <p>b ≤ 350 の場合 a: 2-D16 b > 350 の場合 a: 3-D16</p>	<p>腰壁・土間コンクリート</p>	<p>腰壁・柱周り</p>	<p>排水溝</p>	<p>集水樹</p>
<p>間柱柱脚 P1</p>	<p>間柱柱脚 P2</p> <p>主筋 4-D16 ラップ D10□@100</p>	<p>f1</p>	<p>排水溝</p>	<p>集水樹</p>
	<p>間柱柱脚 P3</p> <p>主筋 4-D13 ラップ D10□@150</p>			

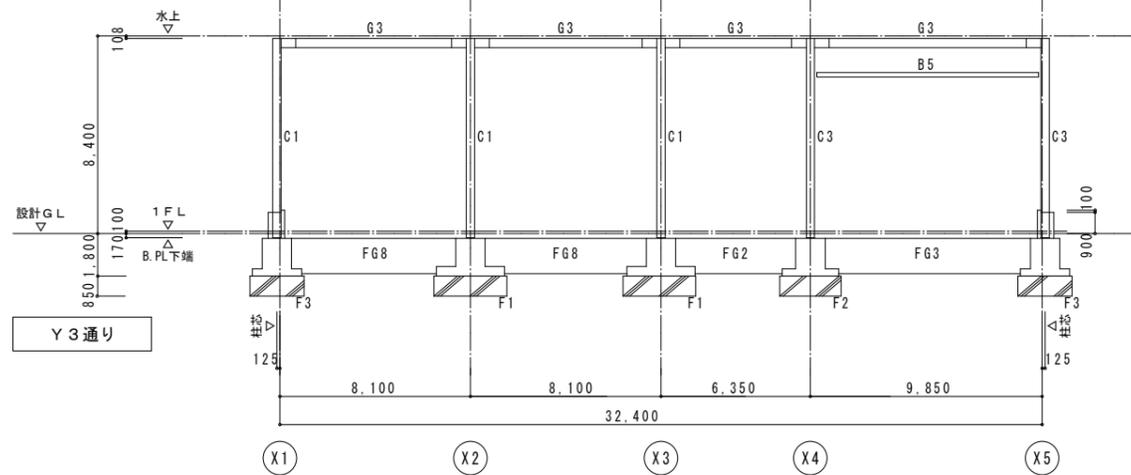
特記無き限り下記による。
 ・大梁 JOINT 位置は柱芯より 800 とする。
 ・鋼線 1C-100x50x20x2.3 @606
 ・開口部周囲 2C-100x50x20x2.3



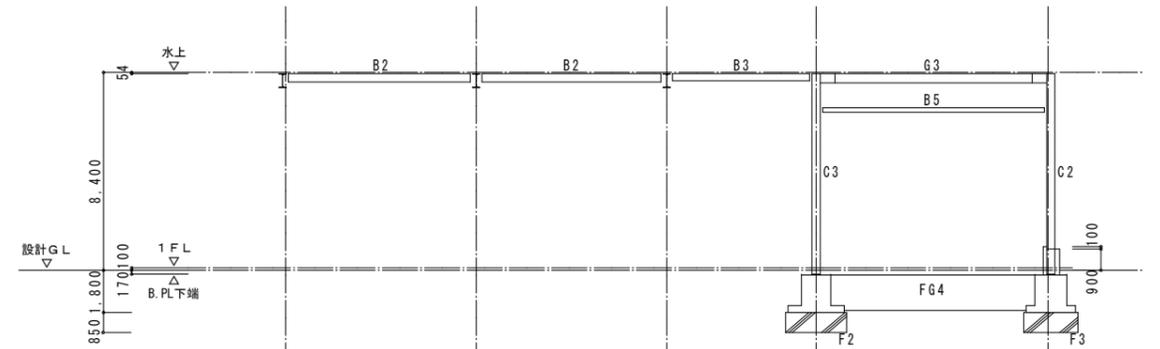
Y 1 通り



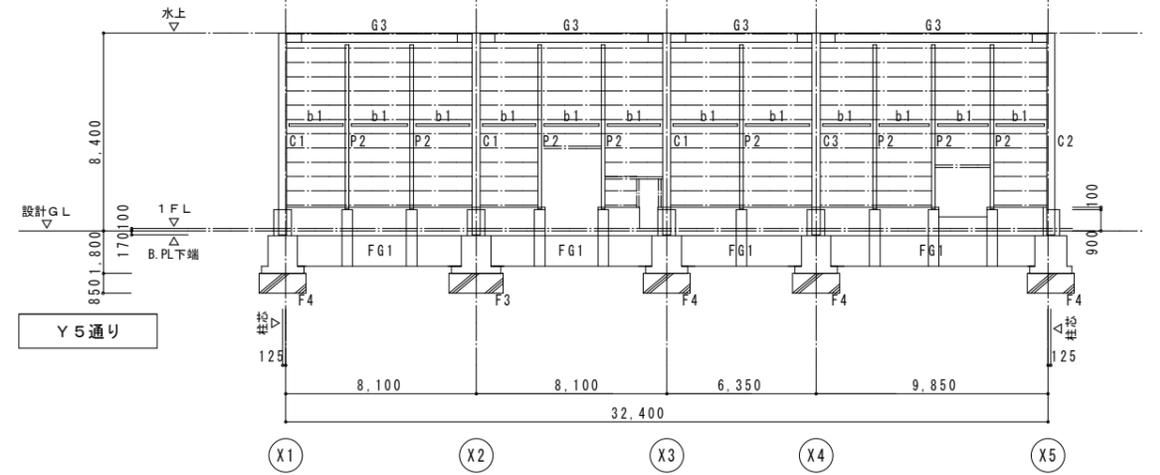
Y 2 通り



Y 3 通り

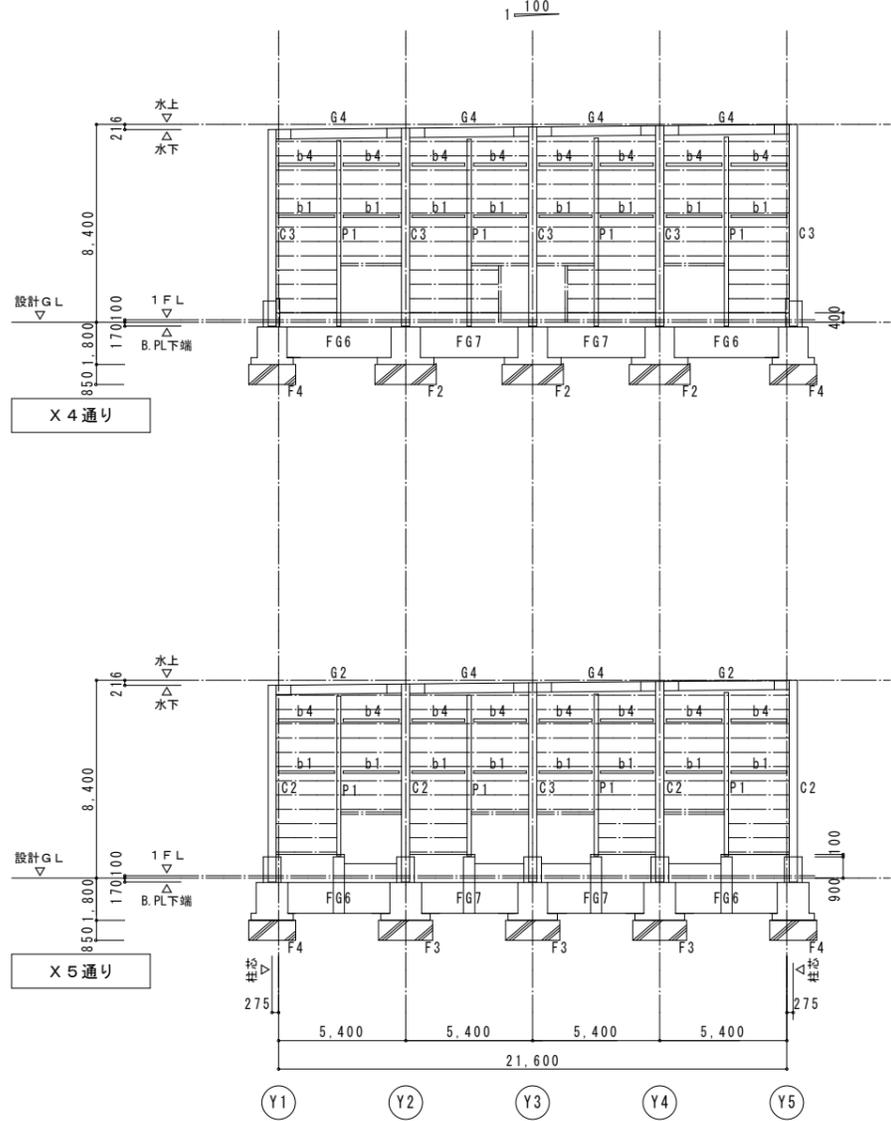
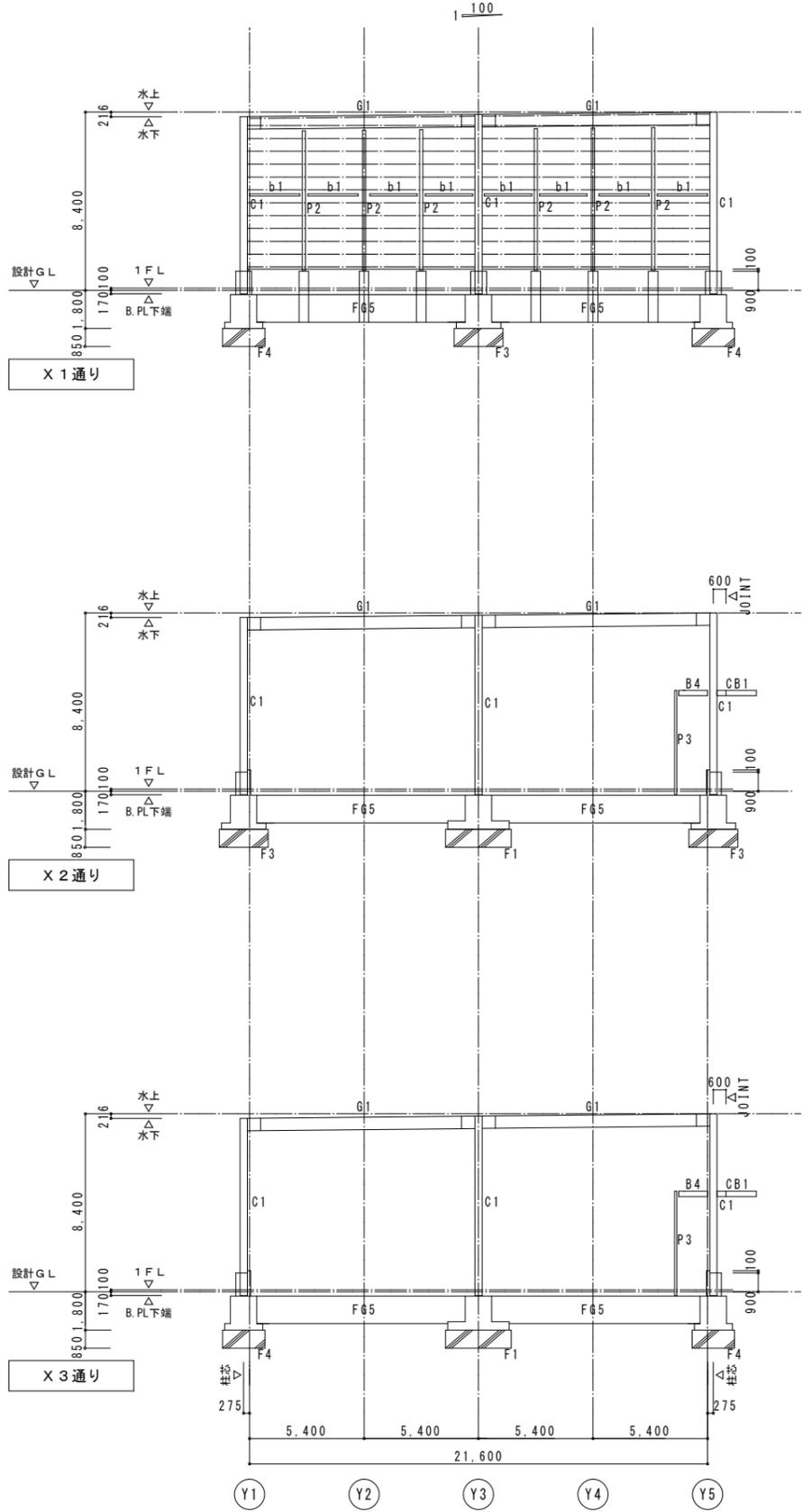


Y 4 通り



Y 5 通り

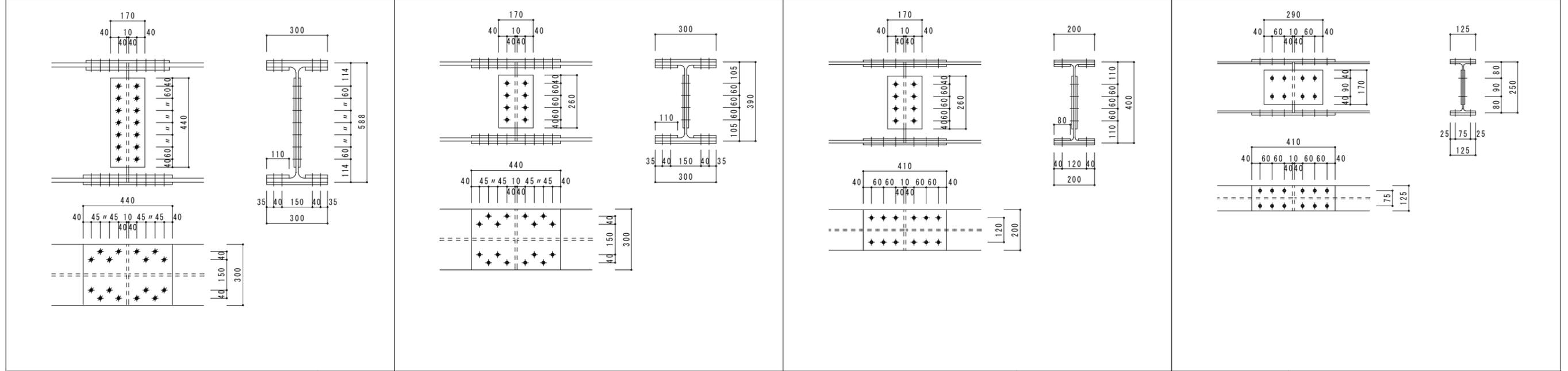
特記無き限り下記による。
 ・大梁 JOINT 位置は柱芯より 800 とする。
 ・胴縁 1 C-100x50x20x2.3 @606 外壁面
 ・胴縁 2 C-100x50x20x1.6 @606 ×4通り
 ・開口部周囲 2C-100x50x20x2.3



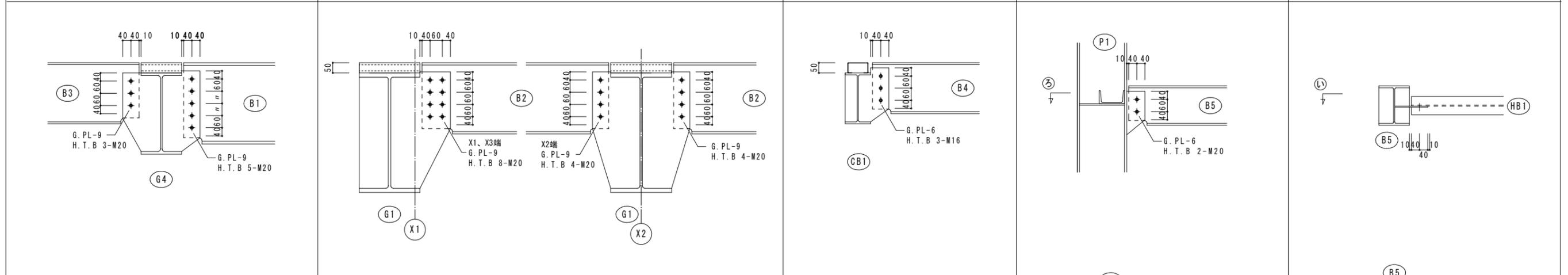
鉄骨部材表

符号	部材	種別
C1	□-350x350x22	TSC295
C2	□-350x350x19	TSC295
C3	□-350x350x16	TSC295
G1	H-588x300x 12x20	SS400
G2	H-390x300x 10x16	SN400B
G3	H-390x300x 10x16	SN400B
G4	H-400x200x 8x13	SS400
P1	H-244x175x 7x11	SS400
P2	H-200x100x5 5x 8	SS400
P3	H-100x100x 6x 8	SS400
B1	H-400x200x 8x13	SS400
B2	H-350x175x 7x11	SS400
B3	H-300x150x6 5x 9	SS400
B4	H-250x125x 6x 9	SS400
B5	H-194x150x 6x 9	SS400
B6	H-175x 90x 5x 8	SS400
B7	H-125x 60x 6x 8	SS400
CB1	H-250x125x 6x 9	SS400
b1	[-100x 50x 5x7.5	SS400
b2	[-100x 50x 5x7.5	SS400
b3	2[-100x 50x 5x7.5	SS400
b4	[-125x 65x 6x8	SS400
HB1	H-175x 90x 5x8	SS400
デッキプレート	アイルーフ75 t=1.0	
折板	折板 W-500 t=0.8	
胴縁1(横)	C-100x50x20x2.3 @606	SSC400
胴縁2(横)	C-100x50x20x1.6 @606	SSC400
屋根ブレース1	1-M27 (JIS)	SS400
屋根ブレース2	1-M12 (JIS)	SS400
水平ブレース1	1-M27 (JIS)	SS400
水平ブレース2	1-M12 (JIS)	SS400

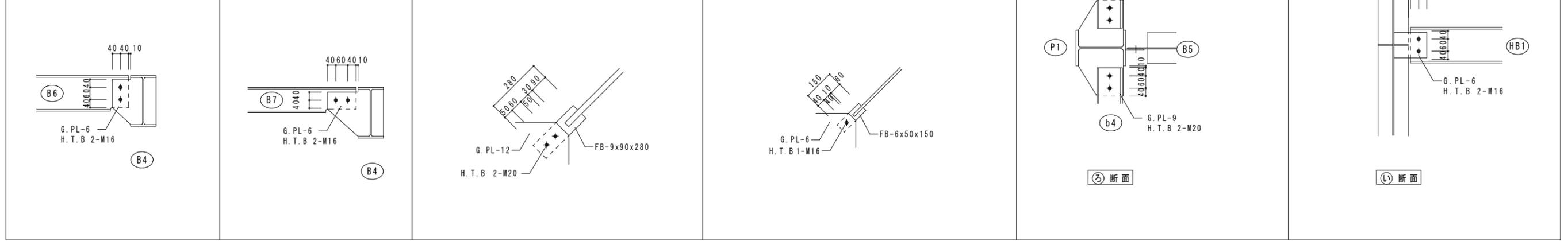
G1 H-588x300x12x20							G2・G3 H-390x300x10x16							G4 H-400x200x8x13							CB1 H-250x125x6x9																		
継手	部材断面		高力ボルト			添板			継手	部材断面		高力ボルト			添板			継手	部材断面		高力ボルト			添板															
	幅又はせい	厚さ	ねじの呼び	本数(本)	行(本)	列(本)	記号	厚さ		幅	長さ	幅又はせい	厚さ	ねじの呼び	本数(本)	行(本)	列(本)		記号	厚さ	幅	長さ	幅又はせい	厚さ	ねじの呼び	本数(本)	行(本)	列(本)	記号	厚さ	幅	長さ							
フランジ	300	20	M22	8	4 x 2	S-PLATE(1) S-PLATE(2)	12 16	300 110	440 440	フランジ	300	16	M20	8	4 x 2	S-PLATE(1) S-PLATE(2)	12 12	300 110	440 440	フランジ	200	13	M20	6	3 x 2	S-PLATE(1) S-PLATE(2)	9 9	200 80	410 410	フランジ	125	9	M16	6	3 x 2	S-PLATE(1) S-PLATE(2)	12 12	125 125	410 410
ウェブ	588	12	M22	7	7 x 1	S-PLATE(3)	9	440	170	ウェブ	390	10	M20	4	4 x 1	S-PLATE(3)	9	260	170	ウェブ	400	8	M20	4	4 x 1	S-PLATE(3)	9	260	170	ウェブ	250	6	M16	4	2 x 2	S-PLATE(3)	6	170	290

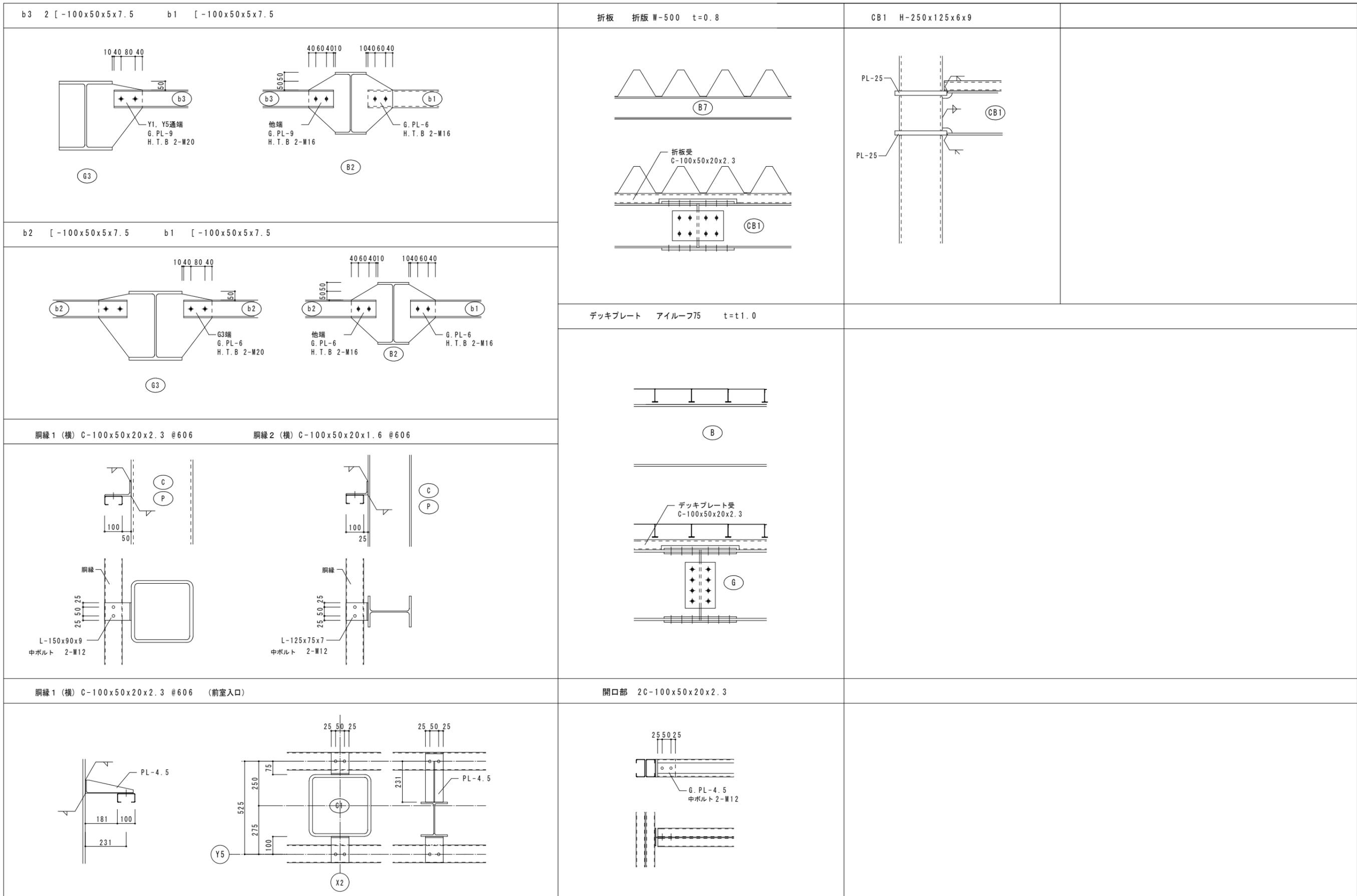


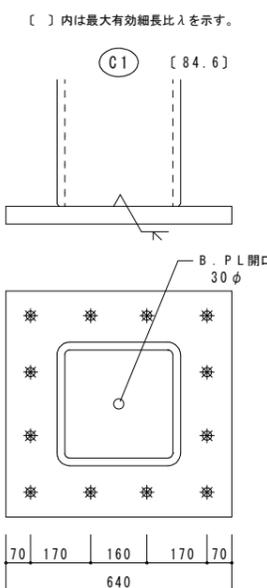
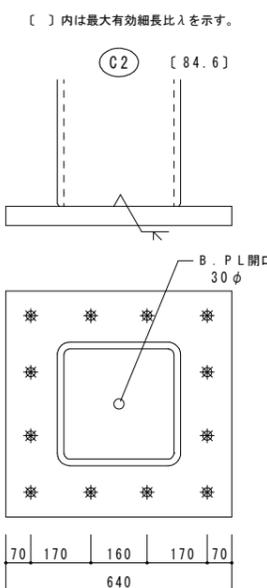
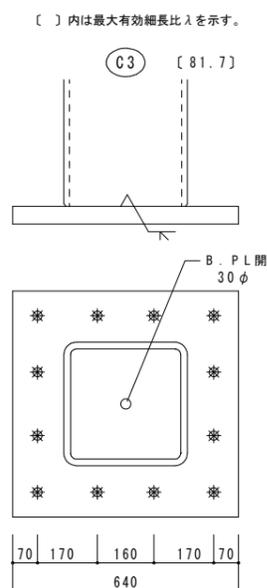
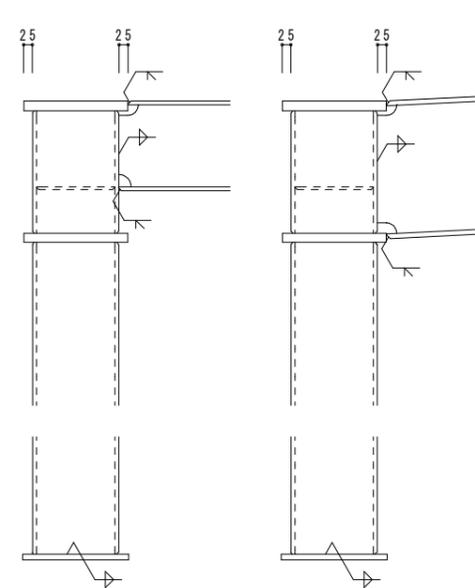
B1 H-400x200x8x13	B3 H-300x150x6.5x9	B2 H-350x175x7x11	B4 H-250x125x6x9	B5 H194x150x6x9	b4 [-125x65x6x8]	HB1 H-175x90x5x8
-------------------	--------------------	-------------------	------------------	-----------------	------------------	------------------

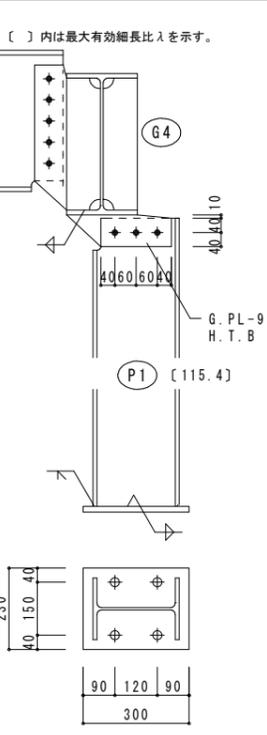
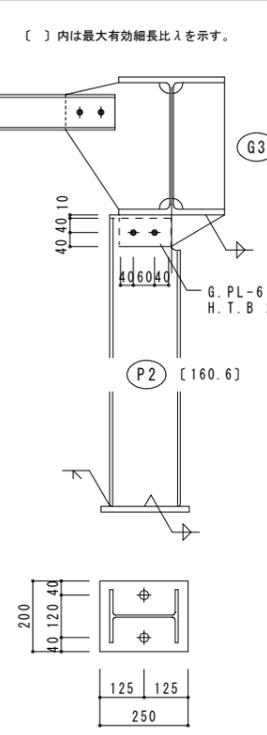
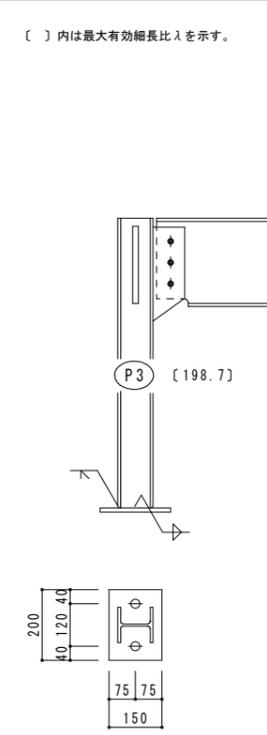
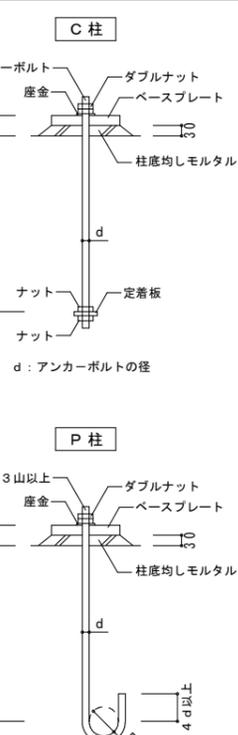


B6 H-175x90x5x8	B7 H-125x60x6x8	屋根ブレース1 1-M27 (ターンバックル付) 水平ブレース1 (JIS A 5540)	屋根ブレース2 1-M12 (ターンバックル付) 水平ブレース2 (JIS A 5540)	③ 断面		④ 断面
-----------------	-----------------	--	--	------	--	------



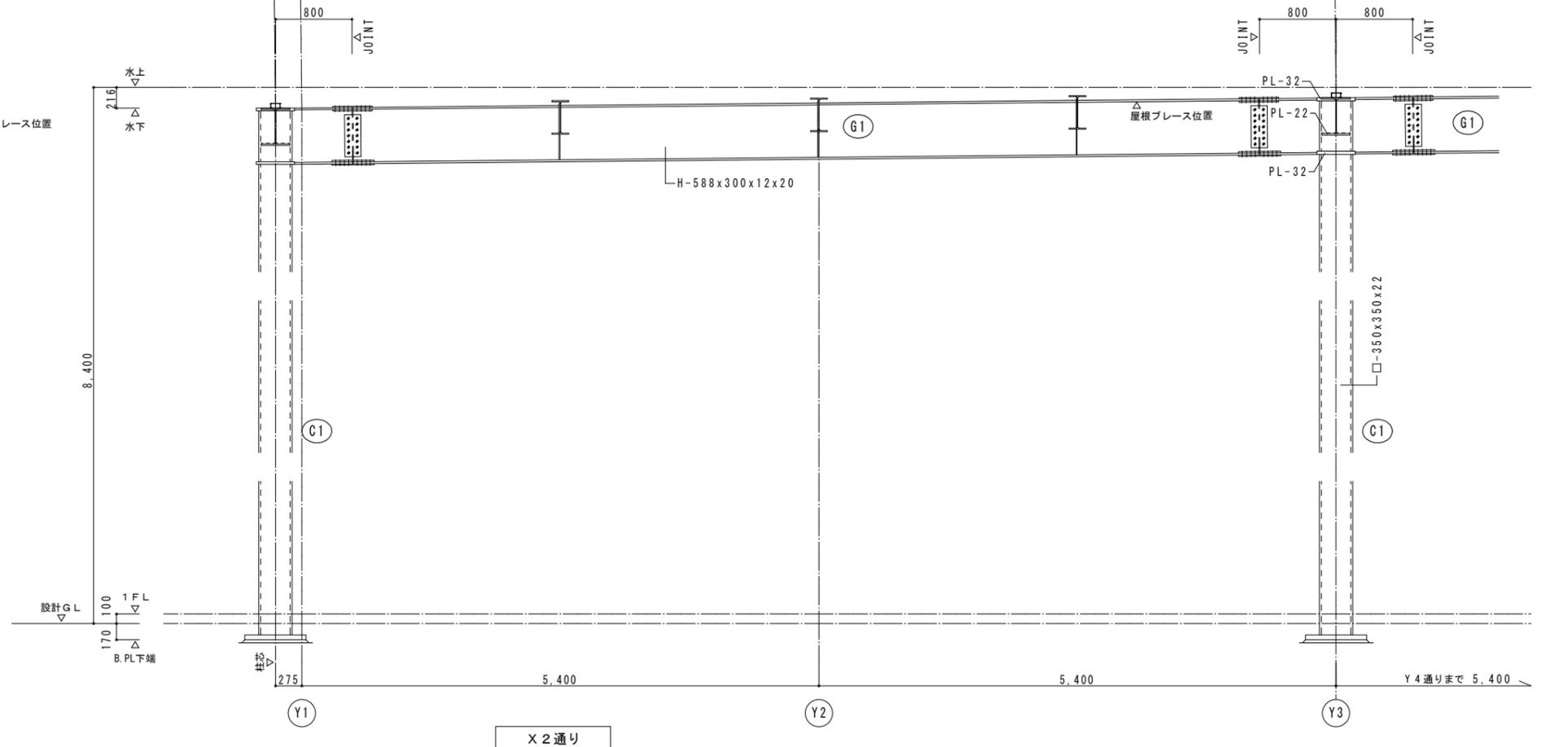
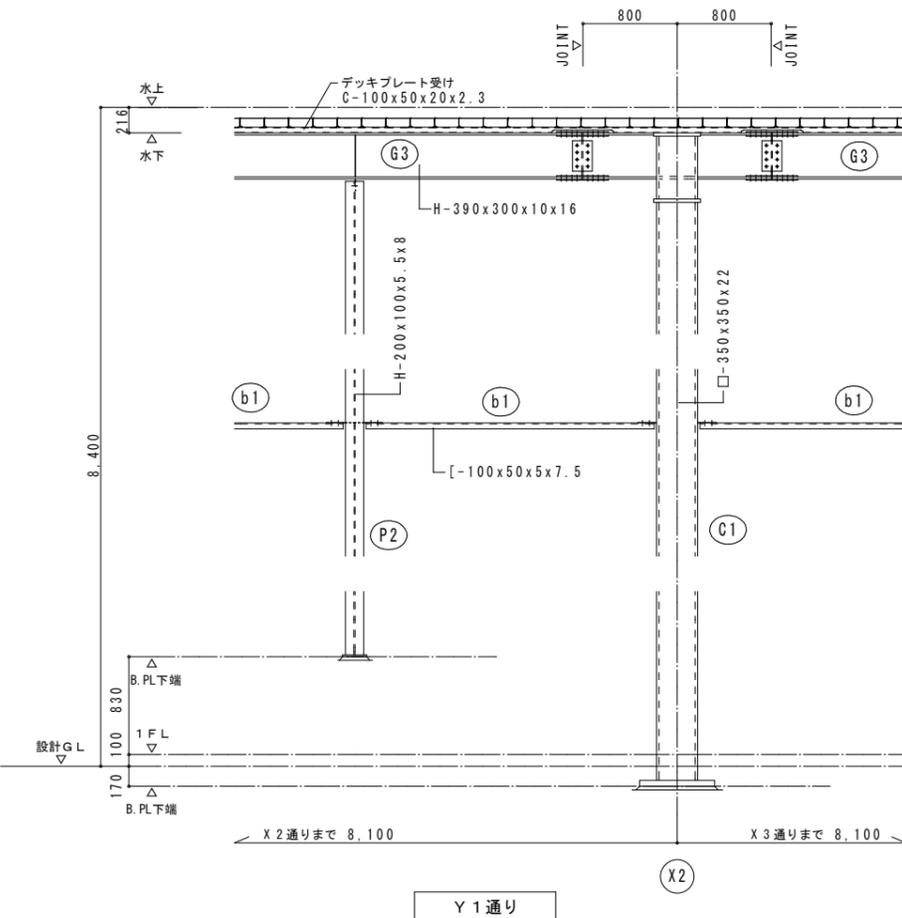
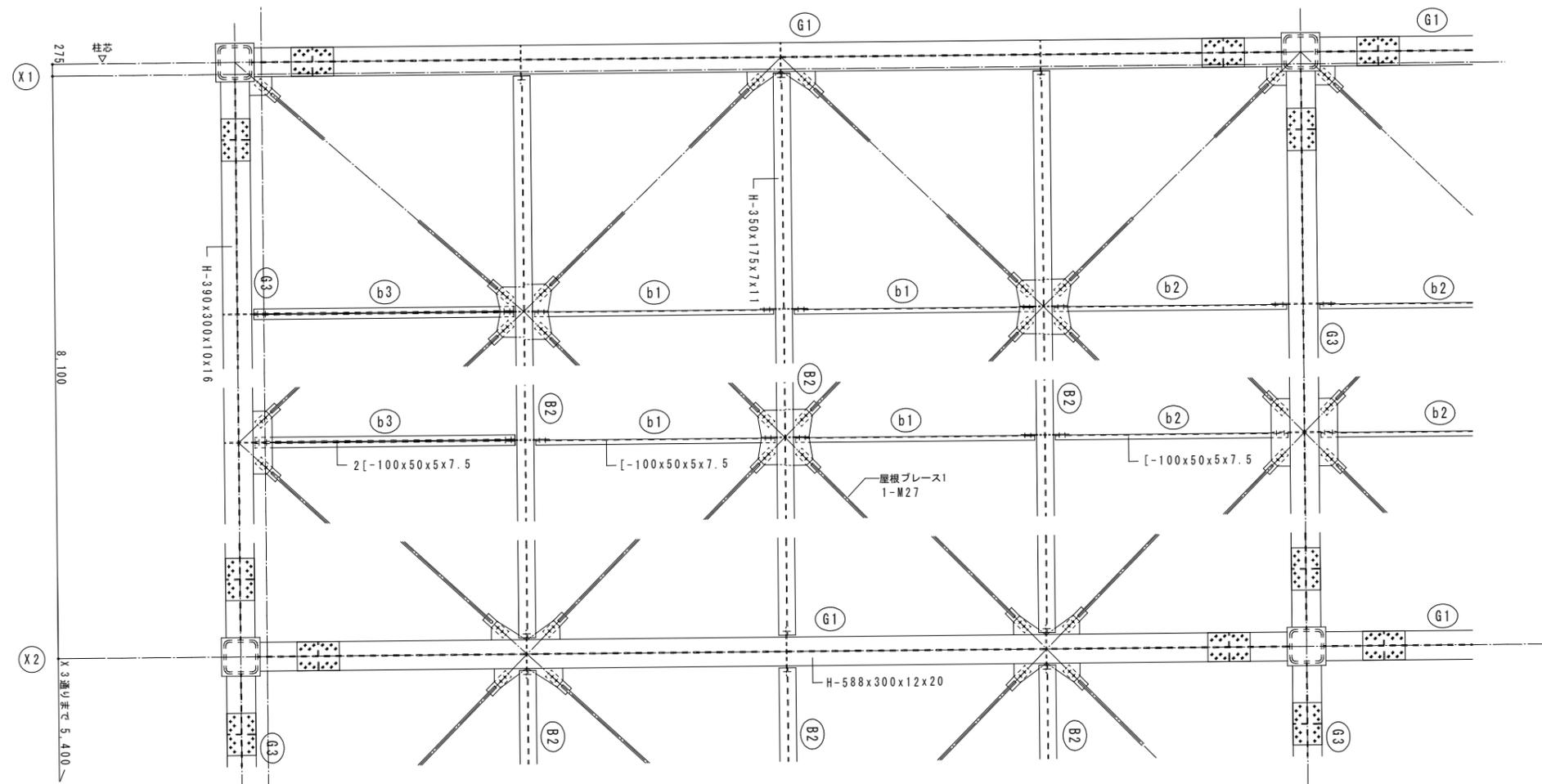


<p>C1 □-350x350x22</p> <p>[]内は最大有効細長比入を示す。</p>  <p>ベースプレート 50x640x640 (SN490B) アンカーボルト 12-M39 L=975 (ABR490) (ダブルナット締め) 定着板 22x120x120 ※ JIS B 1220による。</p>	<p>C2 □-350x350x19</p> <p>[]内は最大有効細長比入を示す。</p>  <p>ベースプレート 55x640x640 (SN490B) アンカーボルト 12-M42 L=1050 (ABR490) (ダブルナット締め) 定着板 22x120x120 ※ JIS B 1220による。</p>	<p>C3 □-350x350x16</p> <p>[]内は最大有効細長比入を示す。</p>  <p>ベースプレート 50x640x640 (SN490B) アンカーボルト 12-M39 L=975 (ABR490) (ダブルナット締め) 定着板 22x120x120 ※ JIS B 1220による。</p>	<p>溶接規準</p> 	
---	--	--	---	--

<p>P1 H-244x175x7x11</p> <p>[]内は最大有効細長比入を示す。</p>  <p>ベースプレート 16x300x230 (SS400) アンカーボルト 4-M20 L=500 (SS400) (ダブルナット締め、フック付)</p>	<p>P2 H-200x100x5.5x8</p> <p>[]内は最大有効細長比入を示す。</p>  <p>ベースプレート 12x250x200 (SS400) アンカーボルト 2-M16 L=400 (SS400) (ダブルナット締め、フック付)</p>	<p>P3 H-100x100x6x8</p> <p>[]内は最大有効細長比入を示す。</p>  <p>ベースプレート 12x200x150 (SS400) アンカーボルト 2-M16 L=400 (SS400) (ダブルナット締め、フック付)</p>	<p>アンカーボルト定着について</p>  <p>C柱 アンカーボルト 座金 ダブルナット ベースプレート 柱底均しモルタル 定着板 ナット ナット d: アンカーボルトの径</p> <p>P柱 3山以上 座金 ダブルナット ベースプレート 柱底均しモルタル 定着板 ナット ナット d: アンカーボルトの径 D: 折曲げ内法直径</p>	
---	--	---	--	--

鉄骨詳細図 S=1:30

※ 通しダイヤフラムについては、接続する梁部材のフランジ厚の2サイズアップ以上、柱厚より厚くかつ16mm以上とし、内ダイヤフラムについては、接続する梁部材のフランジ厚の2サイズアップ以上とする。



CONSTRUCTION TITLE
馬鈴しょ保冷貯蔵庫建設工事

DRAWING NAME
鉄骨詳細図

SCALE
A1 1/30
A3 1/60

DATE
2025 . 5

TO MA TO
都間杜設計
帯広市西16条南6丁目3番18号

1級建築士事務所 (+) 337号
1級建築士登録 193537号
TEL 0155-66-6860 竹本 泰之

NUMBER
S-20